鍛えぬかれたフォームにこそ、メカの真髄がある

■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

東京重機工業株式会社

オリンピックアジア地域予選

晴れの日本代表（役員2 選手16）決まる

ミュンヘンオリンピックアジア地域予選会（11月14日〜28日）に出場の全日本代表選手団が決まった。

アジア予選まであと50日。日本協会では強化に強化を重ねて来たナショナルチームのなかからさらに選りすぐった16名を決定、晴れの代表として発表した。10月10日までにエントリー申し込みを行う全国理事会（9月26日・東京）全国評議員会（10月3日・東京）の協議を経て決定された全日本は技心ともに当代最高のプレイヤー アジアで一つというせまい門をくぐりぬけ聖火燃えるミュンヘンに堂々の駒を進める自信は充分である。

日本協会創立以来34年、オリンピックをめざす選手団が編成されたのはもちろん初めてのこと。いくたの苦難をのりこえて今日の基礎を築かれた多くの先輩、明日への希望を求めて精進をつづける若い力。すべての関係者がこの16人にかける期待の大きさは計り知れないものがある。

選手団は10月5日から20日まで名古屋（ブラザー工業屋外コート大同製鋼体育館）、23日から30日まで甲府（山梨県営体育館）で強化合宿、11月2日に東京入りして大会にのぞむ予定。

代表選手は現在のナショナルプレイヤー（GK3、FP15）から選び出すという方針がすでに決まっていたが今夏健康をそこねた近藤信行（大崎電気）選手と、最年少の花輪博（中央大）選手がキャリア不足で見送くられたのは不運の一語につきる。「できることなら18名をそのまま……」（村田監督）という発言があったのも肯けよう。なお近藤、花輪両選手は10月4日以降、国内公式試合の出場が認められる（除く和歌山国体）。

ミュンヘン・オリンピックアジア地域予選
日本選手団

監督 村田　弘(46)　日体大出・大阪三国ケ丘高教諭　日本協会オリンピック対策部長

コーチ 竹野　奉昭(35)　日体大出・大崎電気　日本協会オリンピック対策委員

選手	氏名	年令	身長	体重	国際公式試合出場	所属
GK	下里　敏彦	(25)	184.	73	20回	大崎電気
	本田　洋	(24)	178.	75	19回	大阪イーグルス
	大村　久	(23)	178.	72	1回	全日体大
FP	飯田　誠行	(26)	188.	82	27回	大崎電気
	有永　修二	(23)	187.	84	10回	東京海上火災
	斉藤　光男	(22)	183.	83	10回	群馬教員ク
	近森　克彦	(26)	181.	78	29回	大崎電気
（主将）	木野　実	(26)	180.	75	29回	ワクナガ薬品
	早川　清孝	(25)	180.	75	16回	ワクナガ薬品
	中井　武三	(22)	180.	72	9回	大同製鋼
	新実　俊夫	(22)	181.	77	2回	芝浦工大
	氷海　正行	(21)	180.	76	3回	日体大
	東　一敏	(26)	179.	71	19回	大崎電気
	藤中　憲二	(23)	179.	70	15回	大同製鋼
	野田　清	(25)	168.	66	22回	大同製鋼
	大江　隆夫	(22)	170.	68	2回	芝浦工大

（注）チームドクター及びマネジャーは未定。

FPに大型並ぶ?イスラエルチーム

イスラエルのオリンピック候補選手21名が明きらかになった。

それによるとFPにはベテランヤリミをはじめレフラー、テネンバウム、ヴァンゲロヴィッツら主力、194cmの新鋭リクリン、19才、192cmのテルオルなど注目すべき選手が並び、GKは主将のセラら5人。昨春、世界選手権の帰途立ち寄った全日本との2試合（10―10、17―6）で活躍したマルコビシュの名は見えない。

「ハンドボール」10月号（第91号）目次

【表紙写真】ナショナルマッチの緊張した一瞬。日本×スウェーデン最終戦、ゴール前のクロスプレーで斗志をむき出しにする両軍（9月18日・東京体育館）
撮影・山田真市

全日本中学（仮称）、前向きに検討

全国理事会 評議員会

日本協会はこのほど東京・岸記念体育会館で臨時全国理事会（9月26日、定数35、欠員1＝出席24有効委任状5、成立）と臨時全国評議員会（10月3日、定数52＝出席7、有効委任状24、成立）を開いた。

ミュンヘンオリンピックアジア地域予選に出場する全日本代表の承認（1頁参照）、同予選運営に関する諸問題を検討。また、全日本中学校大会（仮称）問題がクローズアップされ早期実現へ前向きの姿勢で検討するという注目すべき線を打ち出した。昨春以来、来日を希望しているデンマーク男子ナショナル（世界4位）の招待については相手側の意向を確認の上、11月末に結論を出すことに決まった。

文部次官通達の緩和後、各競技団体は競いあうように年少者、中学生対策にとりくみ全国大会の開催にまで持ちこんでいるが、ハンドボール界は、基礎固め優先の態度からブロック単位の中学対策強化をすすめて来た。

しかし、8月の月例常務理事会で栗脇、田中（滋）常務理事らが「来年度から全日本中学校大会の実施に踏み切るべきではないか」と発言、執行部はただちに各ブロックへ意向調査を依頼した。

全国理事会では各ブロック選出理事（四国を除く）によって現況報告と全国大会への意見が提出され、これを基におよそ1時間にわたって協議が行われた。

北信越、東海、近畿、中国、九州は全国大会開催に賛成の意向を示し、「いましばらくブロック単位の強化優先」を説く荒川理事長ら執行部と〝対立〟の形になった。

執行部は、9月の月例常務理事会で長時間の論議の末「大会の開催にかかる経費の裏付けがない。特に参加者に往復旅費、宿泊費を全額負担するような大会は開くことができない」との意見にまとめ積極派をおさえこんでいたものだ。

全国理事会において5ブロックがすでに参加態勢さえ整えていたことは執行部も意外だったようで「常務理事会の情勢読みちがえ」（杉山常務理事）の感はまぬがれなかった。

しかし、経費面の裏づけとなると現状では打開の道がせまく、参加者負担に関する見解もまちまちで、結局は、一気に開催決議へもちこむまでにいたらず、最終的には執行部側の「ブロック活動優先」がこの場の結論となった。

ただし田村会長、荒川理事長は5ブロックが「すぐにでも実施」という意見であった点を重視、全国評議員会でも野原（大阪）、油谷（石川）両評議員が底辺重点策を強く要望したこともあってただちに小委員会を編成、来春に予定される定例全国理事会までに「前向きな結論を出す」ことを約した。

執行部・荒川理事長、四国を除く各ブロックの見解次のとおり。

（要旨＝文責・編集部）

荒川理事長……全日本中学校大会実施の意義は大いに認めるが、参加者に旅費など全額負担することは協会財政上できない。自費参加できるチームだけの大会や特定スポンサーをつければ、という意見もあるがそこまでして開くのは好ましくない。中学は〝義務教育〟でありインターハイ初期との比較はできまい。

北海道（石切山理事）……釧路など盛んな地区もあるが、まず道内への普及と道大会を開く努力をつづけたい。

東北（佐藤理事）……足元固め優先、ブロック大会をとびこえて全国大会は現時点では考えられぬ。

関東（入江理事）……ブロック大会でさえ経費的な面などで障害がある。全国中体連が消極的なうちは全国大会はムリではなかろうか。＝常務理事会における発言。

北信越（角理事）……全国大会を開くべきだとの声が強い。実施の場合は県単位、経費は出場校負担。

東海（栗脇理事）……東海大会では1m80近い中学生がボールを片手操作する場面さえあった。全国大会への道を閉ざしていてはこうした選手を他競技へ流出させてしまうだろう。経費を全額負担しなければ出られない、というならそのようなチームを除いた者だけででも全国大会を開くべきだ＝常務理事会における発言。

近畿（森田理事）＝近畿各県の関係者は〝是非全国大会を開いて欲しい〟と積極的、意欲的だ。

中国（丸口理事）＝各県代表なら全国大会に賛成。現状では地域差があり山陽の普及度に比べ山陰は遅れている。全国大会開催によって山陰の好転も期待できよう。

九州（藤田八理事）……7県中3県が賛成、4県はまだ基礎固めが未完成で全国大会に踏み切れる状態ではないようだ。

予約申しこみスタート

オリンピック予選入場券

日本協会は「ミュンヘンオリンピックハンドボールアジア地域予選会」（11月14日〜28日）の日程を後掲のように決め、9月25日から東京分を皮切りに入場券の前売りを開始した。

入場券はすでに全国各チームにダイレクトメールによる予約受けつけも開始されており前人気は上々である。

なお大阪大会の入場料は10月上旬に正式決定するが当日売りは各百円増になりそうだ。

オリンピックアジア地域予選会日程と入場料金

▽第1日　11月14日(日)東京体育館　15時開会式、15時40分日本対イスラエル　A席一〇〇〇円、B席五〇〇円、中高校生席三〇〇円

▽第2日　11月17日(水)東京体育館　18時韓国対イスラエル　入場料第1日に同じ

▽第3日　11月20日(土)大阪市立中央体育館　18時日本対韓国　指定席一四〇〇円、一般学生券九〇〇円、中高校生券四〇〇円＝予定価

▽第4日　11月23日(祭)愛知県体育館　15時日本対イスラエル　特別席一〇〇〇円（当日売一二〇〇円）、一般学生券六〇〇円（七〇〇円）、高校生券四〇〇円（五〇〇円）、小中学生券三〇〇円（四〇〇円）

▽第5日　11月26日(金)東京駒沢屋内球技場　18時イスラエル対韓国　A席一〇〇〇円、B席五〇〇円

▽第6日　11月28日(日)東京駒沢屋内球技場　15時40分日本対韓国　入場料第5日に同じ

▼日本協会では全国各チームに属さないフリーの立場の関係者、ファンなどに対し本誌を通じて予約前売り要項を次のように発表した。

アジア予選入場券予約申しこみ主要要項

① 希望する月日と席名、枚数を官製はがきに明記し10月25日までに日本ハンドボール協会（東京都渋谷区神南1の1。TEL東京467七〇九七）へ申しこむ（申しこみ者の氏名・住所を明記のこと）

② 予約申しこみ多数の場合は「抽せん」

③ 入場券（現券）は日本協会〜11月14、27、26、28日分〜、大阪協会〜11月20日分〜、愛知協会〜11月23日分〜から申込者に直接送られる。

④ 申しこみ後の「キャンセル」（返券）は認めない。

⑤ 現券到着後10日以内に精算

登録料二五〇万こす

45年度決算報告

日本協会はこのほど「昭和45年度一般会計収支決算報告」をまとめ、全国理事会、全国評議員会の承認をうけた。

それによると収入総額は一八、〇四四、一九〇円にのぼり当期の決算は五、九七五、三五一円の収益となったが、これは45年3月に実施した第7回世界男子選手権の体協補助金が45年度になって交付されたことなどによる。

チーム登録料は、値上げによって史上初の二〇〇万円台を記録したが前年比八〇八、二二五円増にとどまり、当初目論んだ九〇万〜一〇〇万円増は成らなかった。

積み立て中の「オリンピック基金」は45年度分まで総額八九三、四〇六円（定期預金）となり、今年度分を加算すると現在高は一〇〇万円をこえている。

昭和45年度一般会計報告

収入の部	
科目	金額(円)
加盟金	465,000
登録金	2,587,953
オリンピック基金	158,800
検定料	2,095,000
審判料	327,800
大会参加料	159,000
ルールブック	510,950
体協補助金	7,600,000
購読料	2,470,660
広告料	1,080,000
寄附金	400,000
雑収入	189,027
合計	18,044,190

支出の部	
科目	金額(円)
技術研究費	50,000
競技力向上費	1,712,003
会議費	204,635
旅費交通費	730,670
通信費	683,984
IHFなど分担金	970,582
機関誌及一般印刷費	2,837,973
事務局費	15,240
消耗品費	68,360
備品費	48,328
人件費	1,325,381
賃借費	11,180
大会参加料	209,298
全国大会助成金	950,000
編集取材費	263,400
強化事務費	7,280
予備費	930,506
雑損失	216,575
補助金	145,000
世界選手権	529,644
オリンピック基金積立	158,800
合計	12,068,839
当期利益金	5,975,351

アジア連盟問題 11月再会合

日本協会は県案のアジア連盟（ＡＨＦ＝仮称）準備会議を11月中旬、ミュンヘンオリンピックアジア予選期間中に東京で開くことを決めた。

出席が予定されるのは韓国、イスラエル、台湾、日本の４ケ国で日本代表は田村会長、林副会長、荒川理事長、久田国際部長の４名

ＡＨＦ結成問題は昨年11月、荒川理事長が訪韓した際、韓国協会側の強い希望で急速に具体化、それまでこの問題に消極的だった日本協会も規約草案を準備するなどした。

今春３月、名古屋でオリンピック予選について話し合った会議が同時に第１回準備会議を兼ねるかたちとなり、韓国側からも規約案が示され、各国で再検討することで時日が経過していた。

日本協会筋ではＡＨＦ結成にはなおいくつかの課題がある、としており11月の会議の成り行きが注目されよう。

日本協会の得た情報では今シーズンに入って台湾協会からのルートでホンコン、フィリピン、タイなどにハンドボールの種が蒔かれている、という。

ミュンヘンオリンピックアジア予選 記念バッヂなど頒布

日本協会はミュンヘン・オリンピックアジア地域予選の開催を記念したバッジ、ネクタイピンなどを頒布することになりその細目を発表した。

同予選は斯界創立以来の悲願である「オリンピック参加」を果たすものとして内外から注目をあびているが、特に関係者の喜びと情熱は大会（11月14日～28日）が近ずくにつれいちだんと盛りあがりを見せている。

このため日本協会では大会開催の記念と日本代表の必勝を祈って記念品をつくり、全国関係者、ファン、プレイヤーすべての参画意識を高めることにした。

記念品の収益は、オリンピック予選協賛のかたちで同予選特別会計に繰り入れられる。

【ミュンヘン・オリンピックアジア地域予選記念品】

一、記念バッジ　一個百円
一、記念ネクタイ止め　一個千円
一、女性用記念品（検討中）

現品はいずれも参加3国の国旗と五輪マーク（承認番号JOC71-A-0146）をあしらったスマートなもので＝写真＝10月15日から日本協会、各地方協会、主要大会会場などで頒布される。

なお、日本協会では10月1日から予約申しこみも受けつけている。希望者は日本ハンドボール協会資金委員会（東京都渋谷区神南1の1、467～七〇九七）に品名と個数を申しこめばよい。

NHK杯、再び6月に
来年度の全国大会日程

日本協会では昭和47年度事業計画（全国大会）を次のように予定している。

▽第4回全日本自衛隊大会　5月　東京
▽第19回ＮＨＫ杯全日本選抜大会　6月23～25日又は6月30～7月2日　東京
▽第23回全日本高校選手権　8月1～7日　山形県東根市
▽第15回全日本教職員選手権　8月16～19日　千葉県佐原市
▽第27回国体ハンドボール　10月22～27日　鹿児島県隼人町
▽第15回（女子第8回）全日本学生選手権　11月　大阪
▽第24回全日本総合選手権　12月6日～10日又は13日～17日　東京

なお、第21回（女子第4回）学生東西対抗、実業団関係、日韓交流をはじめとする国際行事は未定第14回全日本女子実業団選手権は北海道での開催が内定している。

ミュンヘンオリンピックハンドボール競技は8月30日～9月9日

男子は決定戦、女子は推せん
全日本総合社会人代表

日本協会では今年の全日本総合選手権（12月15～19日・東京体育館）に出場する社会人代表の決定方法を次のように発表した。

男子2チームはブロッククラブ選手権を開いている4ブロックのチャンピオンにより代表決定戦2試合を行う。組み合せは「北海道代表対関東代表」「東海代表対近畿代表」。女子は和歌山国体出場クラブの中から1チームを推せん。

北欧の勇者 スウェーデン6勝飾る

全日本、価値ある一矢放つ（第4戦）

世界6位、伝統を誇る北欧の勇者・スウェーデンナショナルチーム（アドルフソン団長ら一行27人）はさすがに強かつた。

爽秋のスポーツシーズン開幕を告げる日本・スウェーデン国際親善ハンドボール大会は9月4日横浜での第1戦を皮切りに18日東京での対戦まで全7戦、全国6都市で熱のこもつた攻防をくりひろげたが現代世界一流プレイヤーを主力とするスウェーデンはたくましいチーム力を存分に発揮、めぐまれた体軀とあいまって日本勢を圧倒、6勝1敗と貫録を示した。常にフェアプレーに徹したマナーも大きな感銘を与えた。

オリンピックアジア地域予選を二ケ月後に控えた全日本の健斗も大いに注目されるものがあり、1勝3敗（公式4戦）と負け越したものの第3戦（11日・大阪）で一矢を報いた斗志は内外から高く評価された。

各地とも満員に近いファンがつめかけ活気のある雰囲気のうちに大会が進められ、ミュンヘン・オリンピックへのムードを盛りあげるのに大きな役割りを果たすとともに、巷間の日本ハンドボール界への期待を物語り、シリーズは大成功のうちに終幕した。

ヨーロッパから初めて来日した7人制のナショナルチーム「スウェーデン」は日本ハンドボール史に数々の足跡を残して19日午後0時50分ソビエト航空機でモスクワ経由帰国した。本誌では2回にわたり「スウェーデン戦回顧」を特集する。

スウェーデン、鉄壁の守り

遅かった全日本の反撃

第1戦は全日本との公式第1戦として9月4日午後5時5分から三千四百人の観衆を集めた横浜文化体育館で行われた。審判＝T・ヤーネルスタム、安藤純光

スウェーデン	18	10—3	13	全日本
		8—10		

観戦記

武藤一彦（報知新聞社運動部）

○…"リラックス"と"緊張感"

両チームのベンチはハッキリ異質の雰囲気をかもし出していた。スウェーデンの余裕と自信。ふざけ合い笑い声をたてる大男たち。目をいからせ唇をなめて武者ぶるいする日本。

試合開始。スピーディなパスをまわしての探りあいから4分スウェーデンが先取点だ。"怒濤の寄せ"から左のセーゲルスタットにボールがわたる。186センチの体がグーンとなって倒れ込みシュート。GK本田が辛うじて防いだが、ポロリとこぼれた球はゴールした。日本もよく攻める。近森をポストに木野、飯田がロングを打ったが、ストリョームの堅守は抜群だ。叩きおとし蹴り返しそして驚いたことに"豪球"をキャッチングするのだ。ことごとく得点の芽をつまれる日本。こうして2点目もセーゲルスタッドに決められた。

○……日本待望の初得点は飯田の中央突破が生み出した。浮き気味のDFをフェイントでかわし伸びの良いロング・シュート。8分だった。

だが、このあとスウェーデンの攻撃が爆発する。12分、速攻がはじめて出て194センチのアンデルソン、16分には七メートルスローなど混えて5—1。日本は一線ディフェンスに切りかえ失点をなんとか押えようと必死。が、調子のあがったスウェーデンの攻撃は手がつけられない状態。20分、20分30秒……緩急自在のシュートが日本ゴールを容赦なく襲ったのだった。

○……日本は10分以後、打つシュートをことごとくGKの好守に阻まれ20分すぎにはあせりも加わって的確さを欠く。近森のジャンプ・シュート。木野の豪快なロングシュートがわずかに光っただけで前半7点のアヘッドを許してしまった。後半も16分すぎまで18—8。がスウェーデンはGKをカールストンにかえる余裕すらみせる。途端に日本が生き返った。木野、近森、有永、そして再度木野、ホイッスル寸前には野田の一発も出てなんと連続5点。思うままスウェーデンにかきまわされていた日本が最後にみせた反抗、満員の場内はわきにわいた。とはいえ余りにもおそい反撃。"うっぷん晴らし"にとどまった。

得	【日本】		【スウェーデン】	得
0	本田	GK	ストリョーム	0
		GK	カールトン	0
1	飯田	FP	D・エリクソン	1
3	有永	FP	L・エリクソン	1
0	斉藤	FP	ビヨ・アンデルソン	6
4	木野	FP	ペールソン	3
3	近森	FP	オルソン	2
1	野田	FP	セーゲルスタッド	2
0	藤中	FP	ベン・ヨハンソン	0
0	東	FP	キエル	0
0	早川	FP	スヨデルベルグ	2
1	大江	FP	フイッシエルストリョーム	1
13	7MT（0）		（5）	13

ナショナルマッチ第1戦
ランニングスコア

	日本	スウェーデン
2分40秒		①
5分40秒		②
6分10秒	①飯田	
11分35秒		③
14分25秒		④
16分05秒		⑤(7)
18分40秒		⑥
20分10秒		⑦
22分20秒	②近森	
23分30秒		⑧
28分		⑨
28分32秒	③木野	
29分46秒		⑩(7)
……	……	……
2分		⑪
2分35秒	④大江	
4分20秒		⑫(7)
4分56秒	⑤有永	
9分18秒	⑥木野	
10分		⑬(7)
12分2秒		⑭
14分17秒	⑦有永	
15分5秒		⑮
15分40秒	⑧近森	
17分21秒		⑯(7)
19分38秒		⑰
21分16秒		⑱
24分20秒	⑨木野	
25分30秒	⑩近森	
26分10秒	⑪有永	
27分5秒	⑫木野	
29分10秒	⑬野田	

(7)は7MTを示す

○……GKの交代がなかったらもっと大差がついていただろう。七メートルスローがスウェーデン五日本○。試合運びの差もぬぐえない事実となって現われた。とくにスウェーデンのDFのうまさはどうだろう。GKとの連係の妙、先を読んだ動き――。

日本にあのDFが、長年の課題である固い守りが、ミュンヘンまでにどうしても欲しい……。

ヤ審判、全試合に登場

日本協会でははじめヤーネルスタム審判員に第3戦と最終戦の担当をお願いし、あとの5戦はゆっくり日本審判員を採点・批判してもらう予定だった。ところが来日直後の打合せでスウェーデン側は審判の構成については両国から一人づつでなければ公正が保てないと強調、結局全試合に同審判員は登場した。使用球についても公式4戦は互いのボールで2試合づつと主張、はげしいやりとりがあった。打合せ後、荒川理事長は「いきごみというか国際試合のすさまじさとでもいおうか大変なものだ。まさか日本の審判やボールを信用してないわけではあるまい」と汗をぬぐっていた。

第2戦―対全日本・近森のシュート（山梨日々新聞社提供）

ポーランドと1勝2敗

スウェーデンは来日前、新シーズン開幕ゲームとしてポーランド・ナショナルを招き、3試合を行い1勝2敗と負けこした。

ポーランド17―16スウェーデン
スウェーデン24―17ポーランド
ポーランド17―13スウェーデン

全日本 終盤に疲れのぞく
アンデルソン、逆転シュート

第2戦は全日本との公式第2戦として5日午後3時から二千三百人（満員）の観衆を集めた甲府市・山梨県営体育館で行われた。審判＝T・ヤーネルスタム、嶋田新太郎

スウェーデン 15（8―8、7―5）13 全日本

得	【スウェーデン】		【日本】	得
0	ストリヨーム	GK	本田	0
0	カールソン	GK	大村	0
1	コック	FP	木野	2
2	D・エリクソン	FP	野田	2
3	ビヨ・アンデルソン	FP	近森	3
1	L・エリクソン	FP	有永	5
1	ペールソン	FP	飯田	0
2	セーゲルスタッド	FP	斉藤	0
2	オルソン	FP	氷海	1
1	ベン・ヨハンソン	FP	東	0
2	ヨンソン	FP	大江	0
0	キエル	FP	花輪	0
15	(4)	7MT	(0)	13

観戦記 小山敏昭（共同通信社運動部）

〝大きな壁〟―村田全日本監督の語る強豪スウェーデン戦の悩みがこれであった。しかしこの日の全日本はこの壁をまるで忍者のようにかき崩した。守っても手前で激しくマーク。マットソン・スウェーデン監督によれば〝ラフ〟ともいえるプレーで、スウェーデンの攻撃のリズムを狂わせ、得意とするポストプレーを防いだのが善戦の原因といえた。

前半の全日本は実に見事だった。開始直後、木野が中央やや右よりからシュートを決めて先制した。しかしスウェーデンもD・エリクソンが身長を利して日本ディフェンス陣の頭上からシュートを決めすぐに追いついた。5分すぎにも木野が相手守備陣が整う前、虚をついたフリースローを決め、近森、有永らもフェイントをおりまぜた巧みな攻撃からスウェーデンに先手を与えず、1点を争う好ゲームを展開した。GK本田の判断のいい活躍も目立った。16分ベールソンの7メートルスローを巧みにはじき出した。カンよく相手の動きを見極めたあたりはかってスウェーデンが世界選手権で優勝したときのGKだったマットソン監督をうならせた。8―8のタイスコアーで終った前半も、後半にまた先手を取ったのが全日本だった。4分小さな野田が巨漢ぞろいのスウェーデン選手の間をぬってカットイン・シュートを決め、その直後にも氷海がフェイントをかけ相手選手を左右へゆさぶった。そして空いたディフェンス陣をつき破るように有永がゴールを割り2点をアヘッド。しかし地力にまさるスウェーデンは組織プレーが十分に発揮できないとなると個人技を見せた。オルソン、ヨハンソンが大きなステップから日本ディフェンスをかわして強烈なシュートを決めた。ここで有永が攻撃への出ばな腹部に激しく体当りを受け転倒、このあたりから日本選手

ナショナルマッチ第2戦 ランニングスコア

	日本	スウェーデン
50秒	①木野	
1分20秒		①
3分21秒	②野田	
4分52秒		②
5分50秒	③木野	
6分40秒		③(7)
7分30秒	④近森	
15分30秒	⑤近森	
16分		④
17分2秒	⑥有永	
18分11秒		⑤(7)
19分45秒	⑦近森	
21分		⑥
27分		⑦
27分36秒	⑧有永	
29分30秒		⑧
…………		
2分10秒	⑨野田	
3分10秒	⑩有永	
4分13秒		⑨
4分30秒	⑪有永	
5分32秒		⑩
9分	⑫氷海	
11分		⑪
13分6秒	⑬有永	
13分18秒		⑫
16分5秒		⑬
18分15秒		⑭(7)
29分54秒		⑮

(7)は7MTを示す

に疲れがうかがわれた。ゲーム展開に頭がついていっても体力がともなわないようになってきた。欧州で鍛えた近森でさえへばりがうかがわれた。百戦錬磨のスウェーデンがこの機をのがす筈はなかった。16分にリードオフマンのコックが速攻からシュートを決めて同点に追いつき、18分には〝エース〟アンデルソンが逆転シュートを決めて勝負を決めた。日本の善戦だっただけに惜しい試合だった。30分間休みなく動くスポーツだけに体力、スタミナが必要とされる。全日本チームの後半の疲れは、明らかにスウェーデンのような大きな体の選手とぶっかった時のマークの激しさが原因しているようだ。大きな選手には激しいマーク、激しいマークをすればそれだけ体力を消耗すると悪循環になっている。この点がミュンヘンに行ったときの大きな課題となりそうな気がする。

韓国から偵察隊　スタンドの一角から日本選手の動きを鋭く追う二人―韓国ナショナルチームの姜仁変、金鎮河両コーチで11月のオリンピック予選を前にソウルから飛んで来たもの。

日本協会も韓国やイスラエルの偵察は〝覚悟〟していたが、見られる一方で相手側の動静や情報がいっこうに得られないのには頭をかかえている。

関東学生、善戦実らず

鮮やかな組織攻撃見せる

第3戦・関東学生選抜との試合は8日午後6時3分から三千人の観衆を集めた東京体育館で行われた。審判＝T・ヤーネルスタム、佐野和夫

スウェーデン 19 (9―6, 10―9) 15 関東学生選抜

観戦記

石川　宏（スポーツニッポン新聞社）

第3戦―関東学生の健斗は大いに光った（共同通信社提供）

全日本相手に、すでに2勝しているスウェーデンは、B・アンデルソンとキェルをベンチにも入れず〝飛車銀〟抜き。しかし関東学生選抜に先行され、スタート早々すっかり浮足立った。

4分、佐々木（中大）のシュートで先手を取った関東学生は5、8、10分と得点を重ね、早くも4―2とリード。特に佐々木が中央を割って決めたジャンプ・シュート(4点目)は素晴しかった。

数回のパスをくり返したあと左に深く攻め入った松（日大）がシュートと見せかけ右の佐藤（日体大）へ送球。相手が「スワッ」と逆方向へ向いたその頭上を再びトスされたボールを受けた佐々木が、大きく跳び上って決めたものだ。完全に揺さぶられたスウェーデンはド胆を抜かれ、スタンドの歓声もしばらく尾をひいてゲームの進行が停止してしまった。

しかし15分過ぎ、3回の7メートルスローを長身のペールソンが、いずれも決めて逆転したスウェーデンは、9―6で前半を終った。

後半に入っても関東学生の走力は衰えなかった。セット・プレーを十分に活用、ボールを佐々木に集める。だが危うしと見たスウェーデンは、ここで、先発GKのカールソンを引込め、第1GKのス

得	【スウェーデン】		【関東学生選抜】	得
0	カールソン	GK	馬淵(立教)	0
0	ストリョーム	GK	吉田(早稲田)	0
6	L・エリクソン	FP	佐藤要(中央)	3
1	コック	FP	松原(日体)	1
1	ヨンソン	FP	佐々木(中央)	6
1	スヨデルベルグ	FP	明石(芝工大)	1
1	フイツシエルストリョーム	FP	荒井(法政)	0
0	ベニ・ヨハンソン	FP	松(日大)	1
0	ボー・アンデルソン	FP	田上(法政)	0
7	ペールソン	FP	上野(国士館)	0
1	オルソン	FP	松岡(日体)	2
1	D・エリクソン	FP	吉本(立教)	0
19	(7)	7MT	(0)	15

◇その他の出場者▽関東学生FP 岩下（日体）得1、菊池(早稲田)得0、佐藤雄（日体）得0

ドクターの必要性、再認識

□……スウェーデンチームのなかで日本関係者の目を奪ったのはチームドクター、ペア・ガールステン博士のテキパキとした動きである。プレーの高度化はハンドボールをかなり〝危険度の高いスポーツ〟にもしている。

ヨーロッパではナショナルチームはもちろんのこと、気の利いたクラブは専属のドクターをたえず試合に同行させる。

□……この面で日本では完全に立ち遅れた。ほとんどの試合でガールステン博士の世話になる日本選手がいたことは赤面のいたりだ。

4年前、中国チームが戦捷医師を滞同して来日、その時以来、一部の人たちがチームドクターの必要性を説きながらいっこうに実現されなかった。

□……スウェーデン戦の反省としてまっさきにこの問題がとりあげられ、オリンピック予選から全日本チームにもドクターが委嘱されることになったのは遅まきながら結構な話だと思う。

ナショナルチームばかりではなく、大会には必ず医務・看護部門を〝強化〟するようこの機に徹底して欲しい。

今の選手は甘やかされすぎるなどといってこの問題が軽視されるようでは、斯界の近代化はほど遠いというべきだろう。（X）

トリョームを立てた。必死の防戦は泰功し、4点差で辛くも逃げ切った。

関東学生の頭脳的なプレーは、マットソン監督が試合後、賞賛するほど立派なものだった。特に「毎日タップリ反復練習した」といろ、数種類の特色あるフォーショんがズバリと適中。中央のいい位置でボールをトスされた佐々木は、7メートルシュートなしで6得点と、敗れたとはいえまさに大車輪の活躍だった。

新体操の女王妙技示す 関東学生選抜戦のハーフタイムを色彩ったのは東京女子体大ダンス部の友情出演。新体操では国内ナンバーワンの同部だけにテープやロープ、リングを使った演技は鮮やかなもの。近く世界選手権に出発する予定だが、そのことだけは絶対場内に紹介してくれるなという申し入れ。

世界選手権で顔を合せるスウェーデン側に妙技の内容を知られるのはまずいという訳だ。まさかハンドボール選手から体操選手に〝密告〟されるとは思わぬが、各スポーツとも外国に対する気のつかいようはこのところ異常なほど

スウェーデンナショナルチーム 来日選手団

団長	アラン・アドルフソン	スウェーデン協会副会長
役員	オーケ・ニルソン	スウェーデン協会理事
役員	エナール・オロフソン	スウェーデン協会理事
監督	ローランド・マットソン	ナショナルチーム監督
コーチ	シゴ・ビエルス	ナショナルコーチ副コーチ
コーチ	カール・エリック・アイネルト	ナショナルチーム副コーチ
秘書	インガ・アドルフソン夫人	
ドクター	ペア・ガールステン	医学博士
審判員	ソリルド・ヤーネルスタム	国際公認審判員

選手	背番	年令	身長	体重	日本での得点	職業
GK	①フランク・ストリョーム	(24)	189	80	0	体育教官
	⑫ラルス・カールソン	(23)	181	76	0	学生（工科）
FP	②オツレ・オルソン	(23)	194	88	14	学生（化学）
	③ダン・エリクソン	(24)	186	86	7	警察官
	④ベニー・ヨハンソン	(24)	187	81	11	学生
	⑤クルト・ギョラン・キエル	(28)	187	80	3	科学研究所員
	⑥ギョラン・H・セーゲルスタッド	(26)	187	81	15	体育教官
	⑦レナルト・エリクソン	(27)	191	87	13	海軍予備学校教官
	⑧トーマス・ペールソン	(24)	190	82	15	消防士
	⑨ミカエル・コック	(29)	175	77	3	技師
	⑩ビョルソン・アンデルソン	(24)	192	98	16	商店員
	⑪ベールチール・スョデルベルグ	(24)	179	80	10	学生
	⑬ボー・アンデルソン	(20)	178	79	4	学生
	⑭ヤン・ヨンソン	(23)	176	76	9	技師
	⑮ヨハン・フィシェルストリョーム	(27)	180	79	5	海軍
	⑯ベンクト・ヨハンソン	(27)	194	88	3	体育教官

随行員 Mrs マルガレッサ・マットソン（監督夫人）
Miss シバ・オルソン

ヤーネルスタム氏の残したもの

○……ソリルド・ヤーネルスタム審判員。50才、25年のキャリア、現代最高のレフェリーといわれる一人だ。前回、前々回の世界選手権の決勝戦を担当したことでも国際ハンドボール連盟（IHF）筋や各国の信用度の高さが判ろう。

○……「最近のハンドボールはあまりにも粗暴にすぎる。フェアでクリーンなハンドボールをもういちど世界に認識させなおしたい」――スウェーデンのこれはモットーである。その守り役、ヤーネルスタム氏の裁きっぷりが日本の関係者やファンに「満点」と映ったかどうか。

いろいろの意見があったのも事実だ。特に日本がペースをつかみかけようとしたところで7MTをとる、という声はスタンドでかなり聞かれた。（注、日本側の7MT総失点数26）

もちろんヤーネルスタム氏は「両足防禦」「シューターへのラフな動作」……すべて確信をもって下したジャッジなのだが。

○……村田全日本監督は以前から「日本の審判は世界一だ」と断言していたが、たしかにルール解釈という点では日本人のもつ真面目な性格でそれは裏付けられる。しかし、ヤーネルスタム氏の試合の流れの読み、ファウルに対しての大きなゼスチャアと厳然たる態度などにはさすがと思わせる動きがあり、同氏の来日は大きな意義があった、といってよい。（山）

全日本、気力の初勝利

固い防禦、ピンチ乗り切る

第4戦は全日本との公式第3戦として11日午後6時30分から四千五百人（超満員）の観衆を集めた大阪市中央体育館で行われた。審判＝T・ヤーネルスタム、藤田信義・

全日本 13（6―6、7―5）11 スウェーデン

【日本】	得		得	【スウェーデン】
本田	0	GK	0	ストリョーム
下里	0	GK	0	カールソン
飯田	1	FP	1	オルソン
有永	3	FP	1	D・エリクソン
木野	4	FP	0	ペールソン
早川	1	FP	3	L・エリクソン
野田	2	FP	0	セーゲルスタッド
近森	0	FP	0	コック
氷海	1	FP	1	ビョ・アンデルソン
新実	1	FP	3	スョデルベルグ
藤中	0	FP	0	ヨハンソン
中井	0	FP	2	キエル
7MT（1）	11		11	（2）

観戦記

杉山　茂（NHK運動部）

○……嬉しい1勝だった。

この数年間「強くなった」と言われながら、もうひとつ満足のいかぬ試合をつづけていた全日本が国内のファンに初めてその雄姿を披露した、ともいえた。

すでに2敗、一歩も引けない日本を勇気ずけたのは通路まで埋めつくした大観衆の姿だ。

左ヒザねんざ（甲府戦）で思うように動けぬ近森、高熱の野田をあえて起用したベンチ。すべてをこの一戦にかけたといってよい。

○……日本の立ちあがりは必しもよくなかった。3分D・エリクソンに左から割られて1点を失ったあと、このシリーズ日本側が初めて得た7MTを有永が失敗、その後の速攻による同点機も逸して14分間1―0のまま。

14分たまりかねたベンチは新実を送りこんだ。有永、新実と二人の左腕を並べる布陣は初、14分30秒みごとにこれが当たった。右45度から新実が近森の好配球をうけてクリーンシュート。そして16分10秒野田の7MTで2―1・

○……スウェーデンは16分40秒7MTで同点にしたものの日本の布く2―4防禦に、ポスト攻撃を封じこまれ、長身アタッカーも出足のよい日本の守りに詰められてまったくチャンスがつかめない。

この間に日本は17分15秒木野、19分20秒有永が得意のバウンズ・シュートをたたきこんで4―2。

しかし、3点のアヘッドを許さないあたりにスウェーデンの強みがある。甲府の時もこの壁にはね返されたのだ。20分5秒キエルが巧く走りこんでゲット、21分にはスョデルベルグがすばらしいスピードのロングシュートを放って4―4。日本も23分木野がすかさず3度目のリード点を奪ったが、25分再びスョデルベルグに弾丸シュートを決められた。

1m79、むしろ小柄だが丸太のような腕からスナップの利いたシュートが放たれる。日本の苦手とするチェコやソビエトはこのタイプの選手を揃えているという。

○……27分飯田のゴールで6―5としたが早川退場のスキにL・エリクソンに決められ勝負は後半にかかった。

後半開始後の日本はピンチ。2分L・エリクソン、4分10秒キエルに得点を許し6―8。5分に得た7MTを野田が落とし、もし、ここでスウェーデンが一気にスパートしたら危いところであった。

6分近森―有永のコンビネーション、9分35秒木野のバウンズ秒・シュートでようやく愁眉を開いた

○……問題はこのあとである。22分までの約13分間両チーム無得点というころ着状態、しかし内容は日本が押しに押した。それでいながら得点をあげられなかったのはやはりあと一押しの力と、確実味のあるプレーが欠けるからだろう。

スウェーデンが策のない横への変化だけに終って、日本の守りを突き抜けなかったからよいようなものの、そうでなければ、ここで劣勢に立たされ勝利の芽を自らつみとっていたと思う。

○……重苦しいムードの間にスウェーデンは14分ストリョームが腹部を打ってカールソンと交代。20分にはペールソンが反則退場するなどあったが日本側有利には動かず、22分になってようやく木野がFTからミドルを決めリードを奪った。しかし、スウェーデンも23分ポストからヨハンソンがゲットして9―9。まったく予断を許さぬ展開となり、村田、マットソン両監督はせわしない動作をくり返しつづけた。

○……日本待望の初勝利を確定づけたのは24分20秒野田が右サイドでみせた鮮やかな変り身によるカットインの成功（10―9）と、25分45秒本田―早川の速攻(11―9）の両プレーにあった。残り時間は4分あり、事実スウェーデンは27分オルソンの一投で10―11と追撃。逆転の余地も残っていたのだが、逆転の両チームの動きには明きらかに差が生じ、鋭さ、スピードとも日本がはるかに上廻った。

はたして28分有永が快投、28分20秒氷海の目のさめるような中央突破で13―10と3点差をつけたのである。

○……攻防両面での走り勝ち。そしてすべての歯車がうまくかみあった。特に守りの強さは賞されるべきであろう。最後まで乱れを見せなかったフットワーク、長身選手への詰め。本田の冷静な判断……。

わずかに立ちあがりの攻撃失敗と後半なかばの逸機に悔いは残るが、日本ハンドボール界にとってこの夜の1勝は、まさに〝執念の勝利〟でありオリンピック予選を前に極めて大きな意義があった。

ナショナルマッチ第3戦　ランニングスコア

	日本	スウェーデン
3分		①
14分30秒	①新実	
16分10秒	②野田(7)	
16分40秒		②(7)
17分15秒	③木野	
19分20秒	④有永	
20分5秒		③
21分		④
23分	⑤木野	
25分		⑤
27分	⑥飯田	
28分		⑥
2分		⑦
4分10秒		⑧
6分	⑦有永	
9分35秒	⑧木野	
22分	⑨木野	
23分		⑨
24分20秒	⑩野田	
25分45秒	⑪早川	
27分		⑩
28分	⑫有永	
28分20秒	⑬氷海	
28分55秒		⑪(7)

(7)は7MTを示す

余裕のスウェーデン、前半で大差

本田技研 光る戸田（GK）の美技

第5戦・本田技研鈴鹿（三重）との試合は12日午後4時から四日市市緑地公園体育館に千五百人の観衆を集めて行われた。審判＝T・ヤーネルスタム、稲石三二

スウェーデン 25（12−8、13−3）11 本田技研

得	【本田】		【スウェーデン】	得
0	戸田	GK	カールソン	0
0	加藤勇	GK		
1	三浦	FP	キエル	0
3	星野	FP	コック	1
1	小川	FP	ヨンソン	6
2	末岡	FP	フイッシエルストリョーム	1
2	大下	FP	セーゲルスタッド	3
1	岩本	FP	スヨデルベルグ	2
0	勝田	FP	ボー・アンデルソン	1
1	宮川	FP	L・エリクソン	2
0	加藤玉	FP	ベニ・ヨハンソン	6
0	是技	FP	ペールソン	3
11	（1）MT 7		（6）	25

観戦記　杉山茂（NHK運動部）

○……世界6位と全日本実業団6位。スウェーデンは主砲を休ませたばかりか、試合時間の大半をコック、ヨソソン、ボーアンデルソン、スヨデルベルグ、キエル、セーゲルスタッドの小柄な選手ばかりで進めた。それでもFPの平均身長は180センチ強、本田よりも12センチ上廻る。

序盤は本田の早いつぶしに手を焼く場面があったが、20分6−3のあと相手の鈍い動きをついて1分おきにゴール、前半で勝負のメドをつけた。

○……本田も決して悪いできではなかったし、終始張り切った攻守で好感がもてた。

開始早々スカイプレーを試みわずかなタイミングのずれで実らなかったが、このプレーが成功すればいっそう気勢をあげられただろうと惜しまれる。

空間攻撃はその後もしばしば狙ったが、相手の上背、リーチの長さにじやまされタイミングが合わない。むしろ持ち味のクロスパスでディフェンスをかく乱する攻撃に徹すればさらに点差を詰められたのではなかろうか。

○……光ったプレーがいくつかあった。ヨンソンのサイドからの倒れこみは、空中姿勢が長く、しかもすばらしい手首の返しで突き刺さるようなシュートを見せた。

後半15分セーゲルスタッドのパスアンドランも「さすが」と思わせた。自陣でGKからのパスをう

厳しい統制，激しい競争

スウェーデンの素顔

□……「いいチームだったナ」羽田を飛びたったスウェーデンチームを見送りながら荒川理事長のポツリともらした一言は、今回、同チームに接した人の共通の感がいではなかったろうか。

チームカラーはいたって地味。何より勝負に対して厳しさがあった。「負けてたまるか」という気迫がどのような試合にもみなぎっていた。

□……特に1敗後の最終戦に対する意気ごみは、終始同行していた通訳の萩原雅子嬢（慶大生）も「こわいほど」だったという。

試合前控室に閉じこもった彼らは「ウオーッ」と掛け声をかけてコートに姿を現した。日本チームのよくやる〝威勢づけ〟、外国チームでこれをみたのは初めてだった。

□……これまで来日したヨーロッパチームは多かれ少かれ「少々手をぬいても日本に負けるハズがない」というおごりが感じられた。なかには帰国後〝夢の東洋旅行を果たしたのが収獲〟とうそぶいたチームさえある。スウェーデンに対してもこの危惧を抱いていた人が何人かは居たのである。

空港に姿を見せた彼らのいでたちからすればそれもムリはなかった。

長髪族、胸をはだけたラフなスポーツシャツ姿、Gパン。なかにはつっかけゲタのようなシューズをはいて来た選手もいる。D・エリクソンは婚約者同伴…。だが、その心配もアドルフソン団長の来日第一声で打ち消された。「今日の練習は何時からか」

□……「ミュンヘンへの強化策の一環。物見遊山ではない」とマットソン監督も記者会見でいい切った。この言葉にウソはなかった。選手たちの行動がそれを示した。次の試合に出場する12人は、完全にマットソン監督の管理下におかれ、徹底的に〝休養〟を命ぜられ前夜の飲酒を監視された。面白いのはエントリー外の4人はまったく規制を受けなかったことである。例えば、甲府での第2戦、当日出場の12人は昼食後、外出を禁じ昼寝を命じられたのだが、残る4人はブドウをほおばりながら出発時間まで町へ遊びに出ていってしまった。

団長以下役員のみせた選手への心くばりもみごとであった。

試合相手に関する情報の聞きだしは当然として移動スケジュールに対するリサーチ、ベッドの準備と要求、飲食物に対する細心の注意……。時にはあまりにもこまかく、神経質な注文に萩原通訳や地方協会役員は泣かされたようだが、団長−監督−コーチ−ドクターの連けいによる行動が、選手の信頼を得て〝命令〟を励行することにつながるのであろう。

□……選手間の競争も強烈。なかでも第一線への登用を〝テスト〟されている若手のプレーは迫力があった。

メンバーを決めるコーチ会議の激しいやりとりも「協議というより口論に近い」（山田計常務理事）

帰国後一週間たつと彼らはデンマークの国際大会に行く。「その大会にぼくは選ばれるだろうか」。ある若い選手はそういって心配そうな顔をした。（S）

け、一瞬の間（マ）もおかずコックにパス。コック―ヨハンソン―キエルとすばやいショートパスが廻るあいだにセーゲルスタッドが好ダッシュでコック、ヨハンソンのブロックによってあけられた〝道〟をなんなく走りぬけキエルからのパスでゴールを決めた。時間にして10秒たらずであった。

○……本田では文句なしにGK戸田をほめたい。

前半から再三ノーマークの強シュートを阻んでいたが、後半21分のプレーはなかでも圧巻。セーゲルスタッドのシュートをはじき返し、態勢の崩れたスキをついたボー・アンデルソンのリバウンドも巧みな身のこなしで防いだ。三投目のヨンソンのシュートにはさすがに力つきたが、この美技にスウェーデンベンチも総立ちで拍手を送ったほど。

○……本田にはあまりにも荷の重い相手であったが、この経験を活かし、国内最上位へ躍り出て欲しい。

好素質のプレイヤーを抱えながらもう一つ国内で花が咲かないのは地味なチームカラーという理由だけではなさそう。この日見せたような気迫をどの試合にもみなぎらせてもらいたいものだ。

オルソン選手訪問

「またそれを言う」と顔をしかめた。〝スウェーデンのグルイア〟と記者が言ったからだ。現代最高の左腕・グルイア（ルーマニア）と並び称され、さぞかし誇りに、と思ったのはこちらの軽率。23才、国際舞台には一、二年前デビューした新鋭だが自信満々なのだ。だがグルイアを意識していることも事実。

『有永は日本でもっとも印象に残った選手だよ。最終戦にはぼくのマークをはずして2点もとったもの。1月ルーマニアと対戦した時グルイアはぼくを1回しか抜けなかったんだ』

ストックフォルムの大学で「半分学生、半分先生」だという。つまり研究室の助手が今の身分。将来、原子科学者になるのが夢だ。そのためにハンドボールはあと7年間だけ、30才になったらキッパリやめるつもりという。

『それまでにハンドボール選手として出来るだけの努力をして〝栄誉〟を手に入れたい』しっかりした青年だ。

日本遠征中、うれしいできごとがあった。スウェーデンでは、公式国際試合の出場数がちょうど20回になったのである。このラインに達した選手には〝永久的な表彰〟として協会マークに金のフチどりをしたバッヂとアイデンティフィ・カード（認証）が授与される。（このカードには国内のあらゆる試合にフリーパスできる特典がある）

最終戦の夜、マットソン監督からこれを渡された。早速、バッヂを脊広の胸につけた。スウェーデン協会で147人目にあたる。

『ハンドボール選手としてナショナルプレイヤーになること。その次の目標はこのバッヂを胸につけることだったのサ』

日本での遠征でそれを果たし彼にトウキョウは忘れることのできない場所になるだろう。

『今度はミュンヘンだ』

ちみつな分析にうらづけされた彼の照準はもう〝金メダル〟に向けられている。

体力差はっきり

押しまくられた全熊本

第6戦全熊本との試合は15日午後2時から熊本市体育館に三千人の観衆を集めて行われた。審判＝ヤーネルスタム、藤田八郎

スウェーデン 28（11―2 / 17―7）9 全熊本

▽全熊本交替出場者　GK九谷（熊本商大）　FP平井、吉村、芦原（以上熊本教員ク）、林（中大ク）、緒万（熊本大）、江口（熊本ク）

	【全熊本】	得
GK	島田（熊本教員ク）	0
	三穂野（熊本教員ク）	0
FP	矢住（熊本教員ク）	1
	井（熊本ク）	3
	皿井（熊本工大）	0
	秦（熊本トヨタ）	1
	毛利（熊本トヨタ）	0
	坂田俊（熊本トヨタ）	0
	松川（熊本教員ク）	2
	関（熊本ク）	1
	坂田英（熊本教員ク）	0
	大宮（熊本教員ク）	1
7MT	（0）	9

得	【スウェーデン】
0	カールソン
0	ストリョーム
3	オルソン
1	D・エリクソン
5	ベニ・ヨハンソン
1	キエル
6	セーゲルスタッド
6	ビョ・アンデルソン
3	ボー・アンデルソン
0	ヨンソン
2	フイッシエルストリョーム
1	ベン・ヨハンソン
28	（4）

観戦記

星子弘毅（熊本日々新聞運動部）

○……スターティングメンバーの

フランク・ストリョームの名を一躍有名にしたのは、去年の世界選手権(予選リーグ)でスウェーデンが東ドイツを破った時である。

東ドイツの誇る強力アタッカーの放つ矢のようなシュートを連続ストップ、勝利の原動力となったばかりか、ミュンヘン行きの切符までスウェーデンにもたらしたのだ。

激しい気性の持ち主のようだが表面は実に物静か。静かに燃える男なのだろう。

――サッカーのGKでも有名だそうだが

『小さい頃からボール遊びが好きだったのサ、別にどうってことはない』

――忙しくはないか

『ハンドボール(ヘルラスストックフォルムクラブ)は11月から4月、サッカー(フルーランテ・ストックフォルムクラブ)は3月から10月までとシーズンがはっきりしている。でも今年は、オリンピックの前年だし日本に来ることもあってサッカーの方はちょっと失礼しているヨ』

いかに同じポジションとはいえ器用な話、今回のシリーズでもサッカーの特色を活かした巧技をしばしば見せた。なかでも最終戦近森の足元をつくシュートを右足でおさえつけたプレーは場内をどよめかせた。

ストリョーム選手訪問

『人生一つことだけに熱中するのはつまらない』という彼の哲学(?)は仕事の面でもいかんなく発揮されている。

本職は高校の体育教師、かたわらスポーツ用品会社を手伝っている。

『報酬がいいのでスポーツ用品会社の方を本職にしようかな』と考えている最中だそうだ。それだけではない。今回の日本遠征では「ギョーテボルグス・ポステン」紙の〝特派員〟を引きうけてきた。宿舎に帰って、仲間が自由時間を楽しんでる間、原稿を書き本国へ送信している姿が何回となく見られた。

『全日本は体格差で負けたなんて絶対言ってはいけない。小さい身体を活用したプレーは充分考えられるハズだ。器用さだって重大な武器だ』。

ストリョーム記者らしい評論である。

「今日の勝因は自分の美技にあった、と書けよ」。誰かが大声でどなった――。

対全熊本戦から(熊本日々新聞社提供)

平均身長はスウェーデン187、全熊本170そこそこ。おまけにスウェーデンは平均体重84キロという。

この体力差は戦う前から十分判っていたのだが、いざ試合が始まり、ハダで感じるハンディは全熊本は想像以上だったようだ。

前半5分すぎまでは、スウェーデンに目立った動きは見られなかった。ゆっくり全熊本の動きを偵察した感じ。

○……全熊本が攻めこんだ時ゴールエリアライン前に立ちはだかった相手チームの広い肩巾分厚い胸でがっちりとブロックを組み、まるでカベが建てられたよう。割りこもうと試みた全熊本選手ははじきとばされた。

これで全熊本の攻撃はすっかりすくみ、足も止まってしまった。勝因は走りと速い動きのみにあると思われていただけにスタートで勝負はみえたといえる。

○……全熊本の動きを封じておいてスウェーデンは5分ベニー・ヨハンソンがロングを放って初ゴール、これを口火に力を爆発させ、あとは1分おきに得点を重ね、全熊本は11分矢住がゲットしたものの15分には7―1、25分には11―1と開き、さらにそのあと速攻をおりまぜて6点をたたきだした。

○……前半で勝負はあっさりと決まり、あとは全熊本が差をつめるかに興味が集ったが21―5と開いた16分すぎからベテラン井を中心としたポストプレーで計9点をあげるのが精いっぱいだった。

▽第1戦(9月4日・横浜文化体育館)
スウェーデン 18―13 全日本
▽第2戦(5日・山梨県営体育館)
スウェーデン 15―13 全日本
▽第3戦(8日・東京体育館)
スウェーデン 19―15 関東学生
▽第4戦(11日・大阪市中央体育館)
全日本 13―11 スウェーデン
▽第5戦(12日・四日市市体育館)
スウェーデン 25―11 本田技研
▽第6戦(15日・熊本市体育館)
スウェーデン 28―9 全熊本
▽第7戦(18日・東京体育館)
スウェーデン 11―6 全日本

後半、日本の攻撃不発
すさまじいスウェーデンの気迫

第7戦（最終戦）は全日本との公式第4戦として18日午後3時47分から東京体育館に四千三百人の観衆を集めて行われた。審判＝ヤーネルスタム、岡前義春。

スウェーデン 11（4—3, 7—3）6 全日本

【日本】		得
GK	本田	0
	下里	0
FP	有永	2
	近森	0
	早川	0
	野田	2
	木野	1
	中井	0
	新実	0
	氷海	0
	飯田	1
	東	0
	7MT（2）	6

【スウェーデン】		得
GK	ストリョーム	0
FP	オルソン	5
	D・エリクソン	1
	L・エリクソン	0
	ベニ・ヨハンソン	0
	ペールソン	1
	スヨデルベルグ	2
	ベン・ヨハンソン	0
	セーゲルスタッド	2
	キエル	0
	ヨソソン	0
	（0）	11

観戦記

大国拓哉（読売新聞社運動部）

「第三戦は速攻を許したのが失敗だった。でも、きょうはその速攻をピッタリ押えてみせる」。試合前、スウェーデンのマトソン監督がいったことばである。速攻は全日本の得意ワザ。というよりも重要な得点源である。果たしてストップできるのだろうか——。

試合開始。と、同時にベンチを立ったマトソン監督は、コート・サイドにぺたりとすわり込んだ。そして、床板をたたきながら、コート上の〝セブン〟に大声で矢つぎ早に指示を与える。その声に引っぱられるように選手たちは素早く動きまわった。全日本はこの動きにほんろうされ、たちまちコンビネーションを乱してしまった。前半21、24分に野田（7m）、有永（ミドル）の個人技で3—3と同点にしたものの、七人の動きは依然チグハグ。1分後にはヨハンソンにバック・シュートをきめられ再度リードを奪ばわれてしまった。後半は立ち直りどころか疲労まで加わって動きは半減。これでは勝味はない。期待の速攻も前半9分、近森—野田のコンビで仕かけたのが一度あっただけ。それも長身（1m94）オルソンに寸断されて不発。残念ながら「ディフェンスさえ堅めれば、いつでもストップできる」といったマトソン監督のことばどおりだった。

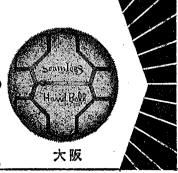
試合後、ミュンヘンでオリンピックをねらう日本の課題は？の質問に、マトソン監督は「ハンドボールはスピーディなものだ。しかし、日本の攻撃は途中でスピードが止ってしまう。この欠点が直らなければ……」と、口を濁したが暗に「ミュンヘンへの道は険しい」といっているようでもあった。

総合的な体力、スタミナ、それにコンビネーション——今更ながら日本選手の劣勢をいやというほど見せつけられたような気がした。ミュンヘンオリンピックのアジア地区予選を一カ月後に控え悲観論は禁物。棒高飛びで今季世界最高（5m42）をマークしているシェル・イサクソン（スウェーデン）と「友人だ」というGK・ストロームは「かれは身長1m74、陸上選手では小柄な方だ。しかし熱心な練習で世界のトップに立った。日本選手だって努力すれば、

第7戦（最終戦）—木野，執念のシュート

ナショナルマッチ第4戦 ランニングスコア

	日本	スウェーデン
1分10秒		①
2分30秒	①飯田	
6分		②
17分30秒		③
21分	②野田(7)	
23分20秒	③有永	
24分55秒		④
2分30秒		⑤
3分50秒		⑥
5分40秒		⑦
6分	④木野	
14分30秒		⑧
18分30秒		⑨
19分10秒	⑤有永	
22分		⑩
25分5秒		⑪
28分18秒	⑥野田(7)	

（7）は7MTを示す

体格に関係なくイサクソンのようになれる」といい、スタンドの豆ファン、海老名忠実君（東京・日野中二年）は「体の大きな外人に勝つためには、七人が力を合わせたプレーをしなくちゃ……」といった。この二人のことば、いまの日本選手にとって、またとない〃グッド・アドバイス〃に思うのだが……。

公式戦勝利、国内では初

全日本の11日大阪での勝利は国内における公式国際試合（ナショナルナルマッチ）の初勝利。これまでの成績は次のとおり。

▽昭31・9・23（大阪球場）
西ドイツ　27—16　全日本
▽昭31・9・30（後楽園競輪場）
西ドイツ　28—12　全日本
〜以上11人制〜
▽昭41・10・3（駒沢屋内球技場）
中　国　18—17　全日本
▽昭46・9・4（横浜文化体育館）
スウェーデン　18—13　全日本
▽昭46・9・5（山梨県営体育館）
スウェーデン　15—13　全日本

なお、41年9月17日横浜文化体育館で芝浦工大が中国ナショナルを23—21で破った記録がある。

近森の連続得点記録止まる

全日本・近森克彦選手（大崎電気）は41年10月の中国戦に初出場以来、9月5日甲府のスウェーデン戦まで公式国際試合連続26試合に得点を重ねて来たが11日の大阪戦で惜しくもノーゴール、快記録に終止符をうった。

なお、木野はいぜん連続得点記録（29試合）を伸ばしている。

L・エリクソン選手訪問

ズラリ揃ったスターのなかから一際輝やく星を探すとなると衆目の見るところレナルト・エリクソン。

要所をしめる巧技は、決して派手さはないが、もう6年近くスウェーデン・ナショナルのレギュラーとして活躍、IHF関係者やプレスなど玄人筋の評判もいい。海軍予備学校でスポーツ教官をしているそうだ。

右手に皮の太い腕輪、左手の薬指にエンゲージ・リングが光る。

『婚約してるンだ。でも結婚したも同然サ』と笑う。

——日本遠征の印象は。

『すべてにグッド。特に観客が我々にも公平に拍手を送ってくれたのは印象に残る。ヨーロッパでは遠征チームにはまったく冷淡だからネ。

体育館も文句なしだ。どこにもすばらしいフロアをもった大きな施設があるのは羨しい』

——スウェーデンではハンドボールは人気スポーツのハズだが。

『支持はされている。しかしアイスホッケーやサッカーには及ばない。

国内のビッグゲームには二〜三千、国際試合の好カードには四〜五千ファンが集る程度だ。南スウェーデンのマロモ市がもっとも熱狂的でよく入る』

——ホームクラブの『ヘルラスストックフォルム』について話して欲しい。

『ハンドボールのほか水球、テニス、陸上などに好選手がいる。

一般会員は全部で300人、ハンドボール部門は少年部門を加えると160人ぐらい。トップの16人が全国リーグに出て、今シーズンもスウェーデン選手権を狙っている』

——ハンドボールは何時からはじめたのか。

『15才の時。それまではアイスホッケーやサッカーなどいろいろなスポーツをしていた』

——これまでいちばん思い出に残る試合は

『一九六八年チェコ協会創立20周年大会で〃世界選抜〃を編成した時その一員に選ばれたことだ』

——これからの目標は

『ミュンヘンで優勝すること、それとヨーロッパカップをとりたいナ』

——ミュンヘンの見通しは

『勝てる、と思うが何しろトップクラスは強豪がひしめいているからネ。運も左右するだろう』

——いま世界でもっとも秀れたプレイヤーをあなたが選ぶとしたら。

『グルイア（ルーマニア）とロスト（東ドイツ）。GKではフリスケ（東ドイツ）がいい。ウチのストリョームも五指に入るだろうし本田にも去年から注目していた。彼はよいGKだと思う』

——日本チームにアドバイスをお願いしたい。

『脊が小さいハンデを補うにはスピード以外にない。それをいたずらにルーマニアや東ドイツのようなフォーメーションプレーを採り入れようとしているのは疑問だ。何年か前、日本をストックフォルムで見た時は、もっと動きが速かったのではないか』

彼のつけ加えた言葉はさらに興味深かった。

『東欧型の組織攻撃はたしかに競技の高度化には役立つ。しかしそれを完成させるには彼らのような〃環境〃が必要だ。一朝一夕できるプレーではないし、純粋なアマチュアがマネしてもとても追いつかないと思う』——。

全日本の課題と反省

守りの力の成長、一矢を報いた大阪での気力。全日本は世界6位と堂々の『四つ相撲』を演じた。しかし、一まつの不安。オリンピック予選を前にあえて全日本を叱る……。

▽……雨のちくもりのち晴れのちくもり。全日本の表情はまさに秋の天気だ。

第1戦（4日・横浜）を終えた時、関係者の全日本評はまことに冷ややかであった。

酷評されても弁解の余地がないほどの完敗、選手たちも「何をやっているのか判らないウチに60分がすぎた」と浮き足だっていたことを認めた。

マットソン監督は「第1戦ということで必要以上に緊張していたのではないか」と同情を示したが「考えが先に立ってプレーがついていかない。もっと積極的でなければ……」と痛いところもついた。

▽……村田監督は「ヨーロッパの大型選手と久しぶりで対戦して勝手がちがった」といい、馴れた第2戦（5日・甲府）ではたしかに一歩の前進を示した。

本場との地域差、いろいろなタイプを簡単に求められるヨーロッパ各国に比べて、日本に〝孤島のハンデ〟は大きい。

IHFやヨーロッパの関係者も「日本は積極的に欧州遠征をすべきだ。そうすればもっと強くなる」といっている。

▽……全日本をどんよりとおおっていた雲は第3戦（11日・大阪）で鮮やかな青空をみせた。

全日本が全日本らしい試合を初めて見せ、集った満員のファンを喜ばせた。

「よくここまで来た。さすが強化の甲斐があった」と誰彼かまわず握手を求めていた古いOBの姿が日本ハンドボール界の大きな成長を物語ってもいた。第1戦を見た関係者もその時の批判を忘れかけた。あるスポーツ紙は翌日〝日本、別人の初勝利〟と見出しをたてた。

▽……第4戦（18日・東京）。初の全国カラーTV中継、鮮やかなライトに浮き出たコートは〝成長した全日本〟の舞台にふさわしかった。1時間後、小雨の中を帰る選手の姿はあまりにも小さかった「オリンピック予選は大丈夫かしら……」。女性ファンの心配そうな声は、この日つめかけた四千人共通の気持ちだったろう。

「どうして全日本は東京で拙い試合ばかりやるんだ」。ハンドボール選手らしい高校生がグサリと一言刺した。

乏しいチーム力の安定度

▽……ともかく試合ぶりが不安定なのである。

かってない強化合宿をつづけながら、未だにチーム力が定まらないのはおかしいという声は強い。

全日本らしさがないという意見がつづく。NHK杯（6月）でも今回でもたしかに「これは」と目を見はらす会心のフォーメーションプレーを披露してくれていない。

武器だという速攻はどうか。

ストリョーム選手は「思ったより速くない」といい、D・エリクソンは「以前みた全日本の方が速かった」とさえいう。

▽……第3戦の関東学生は、史上に残るとも思える快プレーを見せた。左サイドの松（日大）がジャンプでエリアをクロスしたパスを逆サイドの佐藤（日体大）へ。受けた佐藤が再びジャンプで空間へ好配球、中央からすばらしいスピードでとびこんだ佐々木（中大）が空中でキャッチ、そのままゲット。

拍手とどよめきがしばし尾をひいた。語り草ともなるべきシーンであった。

たぶんにツキがあったにせよ、にわか編成の関東学生が、このプレーを狙っていたことはたしかだ。この意欲、大いに買いたい。

▽……全日本にショウを見せろというのではない。ファンや関係者は、オリンピック用の〝ウルトラプレー〟を全日本があみ出すのではないか、と夢をみているだけの話かもしれぬ。

オーソドックスな展開を忠実に示すことは結構。しかし、そこには試合ごとに工夫と進歩があるべきなのだ。

「第1戦と第4戦を比べて大きく進歩しろというのは酷かも知れない。しかし、何か一つ形に表れた収獲を第4戦では示すべきではなかったか」（荒川理事長）。

傾聴すべきエリクソン発言

▽……L・エリクソン。欧州屈指のスター。最終戦の夜、傾聴すべき意見を吐いた。

「日本はたしかによくやっていると思う。我々は4戦とも必死だった。ただ予想外なのは日本に日本らしさがないことだった。

5年前ストックフォルムで見せたクイックプレーはどこへ行ったんだ。

ルーマニアなどのプレーばかり採りいれてもあまり効果はなかろう。もちろん彼らにいい所はあ

☆マットソン監督訪問

◇来日記者会見（2日・東京雅叙園観光ホテル）

『今回の日本遠征はスウェーデンのオリンピック強化対策の一環であり大きな意味をもつ。日本のコートいっぱいを使った組織攻撃を学びたい。

日本の主力選手は去年パリ（世界選手権）でほとんど見て知っている』

◇第1戦のあと（4日・横浜）

『きれいな試合ができて満足している。勝因はGK・ストリョームだ。全日本は去年の春より強くなっていると思うがもっと積極的な試合運びをすべきだ。あがっていたのとちがうだろうか。目立った選手は木野』

◇第2戦のあと（5日・甲府）

『こんなコトをしていては全勝で帰ることができない。全日本では本田がよかった』

◇第3戦のあと（8日・東京）

『関東学生には本当にナショナルプレイヤーは一人も居なかったのですか。スウェーデンが勝てたのは身長差です。学生チームは全員頭脳的なプレーを見せよく戦ったと思います。経験をつめばさらによいプレイヤーになるでしょう』

◇第4戦のあと（11日・大阪）『日本が得意としている速攻にやられた。我々の戦法がかなり見破られていたのも敗因の一つといって

第1戦—セーゲルスタッドのポストプレー成功。今シリーズ最初のゴールを決める。(神奈川新聞社提供)

最終戦—左腕オルソンのフリースロー。

る。でもそれはルーマニア選手がプレーするからよいのであって日本は日本、スウェーデンはスウェーデンの戦法を誇るべきなのだ。

私は、ハンドボールの真ずいは速いプレーにあると思う。

日本はその点でよい手本であるハズだったのに、なんと自らその特色を忘れようとしているではないか」

大型化の上にスピードを

▽……相変らず〝欠点〟と指摘されたのは「ロングシューターがいない」(マットソン監督)ことだ。

有永(東京海上)の進境をはじめ飯田(大崎電気)、斉藤(群馬教員ク)ら大型アタッカーの輩出はあるが、外国チームを恐れさすまでにはいたっていない。

小型、中型の異能さだけで世界と勝負する時代ではない。

大型選手から小柄な選手までスピード、スピード、スピードである。

オルソン、ペールソン、ビョルン・アンデルソンらの豪快なシュートは、理論的にはまったく単調であり、力まかせ、荒けずりな印象しか残らない。

しかし、彼らはGKをはねとばす気迫をこめて射ちこむ。「その若さと豪放さがいい」(アドルフソン団長)のだ。

▽……ショデルベルグ、セーゲルスタッドのエリア周辺におけるダッシュに目を見はったファンも多い。フリースローラインを横切るなどというなまやさしいものではない。風をおこして突っ切る感じだ。そのスピードにショートパスがからむ。大柄な身体に割引きされて見た目に速さはあまり感じないが日本のディフェンスは、しばしば釘づけにされていた。

執念、気力こそ活路

▽……イスラエル、韓国には勝てるという安心感が選手にあるのではないか、というきびしい見方がある。

とりこぼしのできない11月の予選。誰もが日本優位を認めているものの、それは技術上のこと、精神面では3番目というきつい言葉を吐く人もいるホドだ。イスラエル、韓国のもつ国家的背景はこわい。

全日本の選手は第3戦の勝因をどう分析しただろうか。

走り勝ち、守りの強さ、チームワーク。どれも一要素ではあるがいちばん大きいのは「2敗、カド番」と追いこまれての奮起にあったのである。

オリンピック予選では、逆の立ち場に立たされる。

世界10位の日本に一矢をむくいようとする両国の斗志と執念。警戒が必要だ。「何も判らぬうちに60分が終った」などとはナショナルプレイヤーの言葉ではあるまい。

常に燃えていてこそナショナルプレイヤーだ。

それは、日の丸を胸につける選手の必須条件なことを忘れてはならない。

よい。日本がオリンピックでどこまで戦えるかは予測できない。なぜなら世界にはいろいろなタイプの国(チーム)があるからで、我々と同じような形の国ばかりとあえばかなり勝つこともできると思う』

◇第5戦の前(12日・四日市)

『昨日の敗因を旅の疲れにしたくはありませんが、今日は主力を休ませて18日(最終戦・東京)に備えます』

▽第6戦のあと(15日・熊本)

『前半で勝負のメドがついてしまいましたが、これは我々の速攻が成功したからでしょう。早いプレーは我々の目標とするものの一つです』

▽最終戦のあと(18日・東京)

『全勝できなかったことは、全日本の実力がそれだけ高いといえるでしょう。

特にエリアを有効に使ったプレーは大いに参考になりました。また、この遠征でディフェンスの強化に成果をあげ得たのは収獲でした。

どうしたら強くなるか、との問いを各地でうけましたが、それはアマチュアとして許される練習時間内で考えたトレーニングをつむ以外にありません。全試合を通じて日本で目立った選手は有永、木野、氷海、野田、近森。GK本田は欧州でも一流クラスに入ります』

第5回 日韓学生親善大会報告（下）

中央攻撃の多い韓国

荒井正人

ソウルの泰陵選手村を基地にして韓国での活動がはじまった。

第1戦まで余裕があったため練習時間が比較的あり、その間に旅の疲れ（特に精神的な面）もとれ気候にもなれることができた。反面、試合まで間がありすぎ、じれったい思いをした人もいるようだ

第1戦（7月4日、全円光大戦）でまず驚いたのは観衆の激しい声援のボリュームである。鈴なりの群衆の歓声はうんざりするほどでこの調子がソウルに帰ってからもつづいたのだからいささか参った

5試合をふり返っていちばん強く感じたのは、日本の十八番である速攻がまったく発揮できないせまいコートのことである。

したがって攻撃はセットを多用せざるを得ず、思うどおりに試合を運べたとはとても云えない。

さすがに韓国は地元でもありせまいコートに馴れた展開を示し、特に二段での攻撃は巧かった。

我々が苦戦したのはこの攻撃に何回もゴールを割られたからであり、相手の中央からのロングシュートにも威力があった。

こうしたプレーを甘受したのは我々の帰陣が遅い時にかぎってであり、早い戻りをすれば充分に食いとめられる。サイドからのプレーはほとんど見るべきものはない

せまさに泣きながらもサイド攻撃は日本のほうが多用した。

韓国のオフェンスはダブルポストが軸、日本にとっては守りやすいといえる。ブロックプレーも多いとはいえない。プレーの大半が中央部に固まり、シュートは横から流れてのケースが大半だ。

ディフェンスはロングシュートに対する詰めは鋭さを感じたが、ポストに対してはもろい。我々はポストプレーでかなりゴールをあげた。

今遠征を通じて最大の収獲は、「試合は最後の最後まで捨てないで全力をつくす」ということだ。

高校以来、何回となくいわれて来たのだが、今回ほど痛切にそれを感じたことはない。

韓国の粘りも見習うべきだ。すさまじいばかりの国家意識を背景にしての粘りだけに大きな威力となる。特に〝対日感情〟という目に見えないエネルギーによって支えられているファイトは今後の交流のたびに日本チームにとって大きな脅威となるのではなかろうか。ともあれ今回の遠征の経験を活かして今後も頑張りたい。（法政4年・FP）

緒戦で知る「遠征の難しさ」

馬淵豊明

コートの狭さは、前もって聞かされていたが、実際に見て、その狭さに驚いた。暑い。体育館内34度、立っているだけで汗が流れる。

第1戦は前半8対3でリードし楽勝と思われたが、後半追いあげられ苦戦する。この時の歓声、国家意識の強い性格だけに、その応援は、すさまじいものであった。歓声にあおられ、審判の判定に不信を持ちながら初戦は引き分けに終った。海外試合の勝つことのむずかしさ、又、審判のきびしさを思い知らされた。早くも5戦5勝の夢は破れたが新たな斗志が湧いたともいえる。残り4試合は何としても勝たねばならぬと思い、選手一同勝ち抜こうと言い合った。

第2戦からは、さらにコートは狭くなり、タテ32mとなった。しかし、狭いコートにもなれ、対戦相手も第1戦に顔を合せた円光大の現役でもあり様子も判ったせいか21対8と一方的な試合となった。だが、楽な試合が出来たのもこのゲームだけだった。

第3戦、4戦、5戦とも前半はリードされ、後半では、幾度かの逆転のチャンスを逃がし、ベンチにいる者達も手に汗握る大熱戦であったが試合の終盤、最後のチャンスと思われる機会をものにし逆転勝ちをした。

前半での得点差も試合ごとに、4、2、1とちぢまり、チームの調子も徐々に上がってきたこと、チーム全員がよくまとまり、一丸となってゲームに臨んだことが逆転劇を生み出したのだと思う。

4勝1分。遠征試合の苦しさ、混成軍のむずかしさを十分知ったが今思うに、第1戦の引き分けがあってこそ、残りの4勝が生まれたような気がする。

とにかく、1敗もせずに帰国できてよかったというのが本心であり、また、それが一番うれしく一番よい思い出になると思う。（立教4年・GK）

発展途上の韓国球界

大江隆夫

韓国到着後三日目の七月四日、ソウルを出、全州に向かい円光大学と対戦、再びソウルにもどり、六日、七日、八日、九日と、ソウル市内の奨忠体育館で、全州で対戦した円光大学、慶熙大学、去年日本に来日した成均館大学、大学選抜、と4連戦というスケジュール。全州での初戦円光大学とのゲーム前半五点もリードしながら後半追いつかれ引き分け、ソウルでの円光大学とのゲームはもう対手の攻撃がわかっていたせいもあり大勝したが、第三試合以降は、全て前半リードされながらも、後半に逆転して、一点差で三試合をものにした。チーム全体の歯車のかみ合いと江名コーチの巧い戦法、選手起用が当たったともいえる。また、監督、コーチ、選手一丸となって頑張ったチームワークで得た勝利ともいえよう。全州、ソウルでの五試合を振り返って、いちばん抵抗を感じたのはコート

が、32×19メートルと大変小さく速攻が思うように出来ず、五試合の得点のほとんどはセットプレーであり、特にポストプレーがよく決まった点である。韓国で学んだ事は、プレーがすごく力強く、ボールにたいしての執着心である。オリンピック予選になればいっそうこの特色は強く見られるだろう。韓国にいる十日間、あまり観光的な事はなかったけれど、バスの窓などから、ソウル市内、全州など眺めると韓国は今建設途上の最中で、国全体、力強く発展している感じだった。これはそのまま韓国ハンドボール界にあてはまることでもあり大変強い印象を受けた。（芝浦工大4年・FP・ナショナルプレイヤー）

収獲は粘り勝ちの自信

氷海正行

私は日体大の一員として一昨年も訪韓の幸運に浴しておりますが韓国のハンドボール技術が二年前とは、とても違うのに驚きました。どのチームも二年前には見られなかったようなプレーを展開したのです。攻撃においてはダブルポストを用いてのセットオフェンスそしてデフェンスにおいては、これまでの2―4、1―5のほか一線に近いデフェンスシステムを使用していたことです。昨年西ドイツからコーチを招いたというニュースはやはり本当だったのでしよう。

その韓国チームを相手に、我々全日本学生選抜チームは、第一戦から苦しい試合はこびとなりました。異国での試合は、毎日の生活から始まると思います。飲水、食事、気候、あらゆるものと戦い、そして毎日のゲームに臨まなければならないことは、容易なことではありませんでした。しかし今回の試合は韓国チーム特有のねばりのある試合を、逆転して勝ったゲームが多かったことは、日本のチームにとって大きな自信になると思います。（日体大4年・FP・ナショナルプレイヤー）

日韓学生交流全記録（男子）

▽昭36.10　日体大遠征（11人制）

○日体大	22―7	慶熙大
○日体大	22―6	成均館大
○日体大	26―10	慶北大
○日体大	18―4	大邱学生選抜
○日体大	21―10	延生大
○日体大	21―8	光州師範大

▽昭38.6　韓国学生選抜来日

○全東海学生	21―14	韓国学生選抜
△日体大	25―25	韓国学生選抜
○全関東学生	19―9	韓国学生選抜
○桃山学院大	30―22	韓国学生選抜
○全京都学生	19―16	韓国学生選抜
●広島商大	17―19	韓国学生選抜

（日本側社会人との2試合は略）

▽昭44.7　日体大遠征

●日体大	18―19	成均館大
○日体大	15―13	慶熙大
○日体大	20―15	韓国学生選抜
○日体大	14―9	円光大
●日体大	11―12	全慶熙大
○日体大	13―12	成均館大

▽昭45.6　成均館大来日

○日体大	15―14	成均館大
●関西学生選抜	16―17	成均館大
●東北学生選抜	12―25	成均館大
●東海学生選抜	16―25	成均館大
○関東学生選抜	19―14	成均館大

▽昭46.7　全日本学生遠征

△全日本学生	15―15	全円光大
○全日本学生	21―8	円光大
○全日本学生	17―16	慶熙大
○全日本学生	15―13	成均館大
○全日本学生	15―14	韓国学生選抜

通算成績28戦20勝6敗2分

チームの和で苦境を克服

川上貴司

せまいコート、異常なまでの観衆の応援、レフェリーのジャッジ下痢による体力の低下そしてそれにともなうすべてのコンディションの混乱……。

数え切れないほど制約された条件のもとで私達は勝つために必死になった。いやゲームに勝つことより、試合以前、試合周辺の困難な障害にうち克つことのほうがより苦しかったといえるかも知れぬ。

この障害を全員の力で乗りこえた。これは感激的なことであり、チームプレーにおける〝和〟の強さを改めて知った。

選抜軍にあり勝ちな利己主義的な態度を皆、かなぐり捨て〝我〟(が)を抑えてチームに溶けこんだからこそあれだけの苦境をのり切れたのだろう。

その点で皆は本当の意味で〝真のスポーツマン〟だったのだと誇ってよいと思う。

私は今回の遠征で試合、レセプションそして団体行動を通じて日韓両国間の親善もさることながらもっと大事な人と人との〝和〟を学ばせていただいたと思っております。そして、我々のカゲで御尽力下さった西団長をはじめ藤松役員、中沢監督、江名コーチの指導を私たちは忘れてならないと思うのです。この貴重な経験を土台として私はこれからのハンドボール生活はもちろん、実社会に出ても精いっぱい頑張っていこうと考えています。（関学4年・FP）

韓国有力紙が論評

第5回日韓学生戦後、地元の有力紙「東亜日報」（7月10日付）は次のような要旨の論評を掲げた。

※

韓国ハンドボール界の中枢は大学の在学生であり、その代表的チームが全日本代表を抜きにした全日本学生に1勝もあげられなかったことは大きな失望である。

韓国各チームは終盤逆転されるケースが多かった。韓日両国のハンドボール人口はかなりの差があるがサッカー、バスケットボールでも同じことがいえ、同じ球技のハンドボールだけが日本におくれをとらなければならぬ理由はない

オリンピックをめざし強化にはげむ日本やイスラエルをおさえ韓国が世界へ進出するには実業団チームの充実や、審判員、技術指導員の養成を急ぐ必要があろう。

（文責・編集部）

男女とも東軍が連勝

全日本学生東西対抗

第21回（女子第3回）全日本学生選抜東西対抗は9月18日午後2時5分から名古屋の愛知県体育館で行われ、男女とも攻撃力に優る東軍（東北北海道、北信越、関東）が昨年につづき快勝した。通算成績は男子・東軍13勝8敗、女子・東軍2勝1敗（観衆三千）

西軍の反撃遅し

▽男子

東　軍 18（9－3 / 9－9）12 西　軍

☆……両チームともにコンビネーションがもう一つ整わず、特に西軍の立ちあがりは凡ミスが目立ちそのスキを松、佐藤要らの個人技でつかれた。

前半12分3－0のあと西軍は夏目が初ゴールをあげたが、東軍も16分、17分松の連続得点で主導権をはなさなかった。

後半も東軍のペース、5分には12－4と差がついた。東軍が要所は日体大5名を繰り出して相手の動きを封じこめたのに対し、西軍はひんぱんに選手を交代させ最後までコンビがとれずに終った。オールスターゲームの難しいところであろう。

西軍は後半6分から川上、中村らの個人技でポイント、21分には9－15まで盛り返したものの大勢をくつがえすにはほど遠かった。

東軍、前半で勝負決める

▽女子

東　軍 11（9－1 / 2－3）4 西　軍

★……東軍が巧いスタートを切った。1分30秒木村、2分10秒韮沢で先行、9分にも福田がゴールを決めた。ペースにのるとかなり思い切ったプレーを見せるのが最近の女子の傾向、この日の東軍がまさにそれでのびのびとした攻撃を展開、一方的に得点を重ねた。

西軍は16分安井がジャンプシュートを決めただけで勝負はあっけなく前半でついてしまった。

後半になって西軍もスムースな動きを示し、相手を上廻る場面もあったが11分4－10としたのが精いっぱい。

東軍の攻撃はパス、ランニングコースとも鋭さがあり、つねにシュートへの意欲がみうけられ、速攻にも迫力があった。西軍はチームとしてのプレーがまとまらず特に立ちあがり、あっさり得点を与えたのが最後までひびいた。

全日本学生組合せ速報

全日本学生 ▽男子組合せ1回戦 ①福岡大×関学、②愛知教大×国士舘、③富山大×大阪体大、④東北学院×立教、⑤山口大×京都産大、⑥法政×岐阜大、⑦大阪経大×早稲田、⑧芝浦工大×京大、⑨金沢工大×東京教大、⑩九州産大×甲南、⑪中京×日大、⑫中央×松山商大、⑬東北大×関西大、⑭名城×東京学芸大、⑮西南学院×同志社

◇同2回戦 日体×①の勝者、②×③……⑭×⑮

▽女子組合せ1回戦 ①福岡教大×中京女大、②日女体大×甲子園学院

▽同2回戦（準々決勝）日体×①の勝者、東京教大×大阪体大、東京学芸大×中京、東女体大×②の勝者

○……男　子……○

得	【東	軍】		【西	軍】	得
0	高橋誠	（日体）	GK	森友	（大阪経大）	0
0	馬淵	（立教）	GK	逢坂	（大阪体大）	0
3	松原	（日体）	FP	川上	（関学）	5
0	佐藤雄	（日体）	FP	松井	（同志社）	1
5	佐藤要	（中央）	FP	川口	（名城）	0
1	佐々木	（中央）	FP	飼沼	（名城）	1
0	荒井	（法政）	FP	夏目	（中京）	1
1	明石	（芝浦工大）	FP	木原	（松山商大）	0
3	松	（日大）	FP	藤井	（大阪体大）	0
1	酒尾	（金沢工大）	FP	橋本広	（大阪経大）	1
0	佐藤富	（日体）	FP	中村	（大阪体大）	3
0	松岡	（日体）	FP	大山	（松山商大）	0
4	高橋精	（日体）	FP	磯道	（広島大）	0
0	山本	（仙台大）	FP	岩原	（西南学院）	0
			FP	牧	（西南学院）	0
18	（0）		7MT		（1）	12

▽審判＝鈴木四，奥村

○……女　子……○

得	【東	軍】		【西	軍】	得
0	大工原	（日体）	GK	柿田	（甲子園）	0
0	松井	（東京教大）	GK	戸谷	（大阪体大）	0
0	永田	（日体）	FP	辻	（甲子園）	0
1	嶋田	（日体）	FP	和歌	（甲子園）	0
3	木村	（日体）	FP	乗正房	（甲子園）	0
1	福田	（日体）	FP	継田	（甲子園）	0
4	韮沢	（東京教大）	FP	玉岡	（大阪体大）	1
1	堀江	（東女体大）	FP	岡	（大阪体大）	0
0	小貫	（日体）	FP	宮田紀	（中京）	1
0	渡辺	（東京教大）	FP	白井	（甲子園）	0
0	岩本	（日体）	FP	大崎	（中京）	0
0	継	（東京教大）	FP	田島	（中京）	0
1	川井	（東女体大）	FP	安井	（中京女）	1
0	赤塚	（日体）	FP	佐竹	（中京）	1
0	高橋	（東女体大）	FP	宮田麗	（甲子園）	0
11	（0）		7MT		（0）	4

▽審判＝浅野，赤松

和歌山国体展望

第26回国体ハンドボール競技は10月25日から29日まで和歌山県打田町に全国9ブロックの予選を勝ち抜いた男女5部門71チームと沖縄高校女子選抜が参加して華やかに開幕する。

オリンピック予選を二旬後に控えての大会、郷土の期待にこのムードがプラスされていっそうの盛りあがりを感じとれる。

すでに発表された組み合せを見ながら有力チームを拾い出してみよう。

なお、北海道代表は選手団縮少となり、教員の部の出場を辞退した。……（編集部）

2冠めざす湯沢高
追う佐世保北、岩国工ら

◇高校男子（10チーム）出場全チームどこが優勝してもおかしくはない。それほどの実力伯仲、たぶんに〝運〟も影響しそうだが今年はめずらしく単独校が優勢の様相インター・ハイ優勝の湯沢（秋田）。もちろん2冠に意欲満々である。長身選手の豪放な攻撃を要とした速攻に威力がある。

対抗は新居浜工（愛媛）、佐世保北（長崎）。特に佐世保北はインター・ハイの決勝では前半リードしながら逆転負け。湯沢と再び対決するとなると雪じょくの意欲に夏の自信もからむ。

ダークホース同士岩国工（山口）×東京選抜はもつれそう。この試合に勝って波にのれば湯沢も苦しくなる。前年優勝の大阪×岐阜は好勝負。

和歌山は主力の和歌山商が湯沢と接戦をしており、地元の利を活かすと面白い。

湯　沢（秋田）
岩国工（山口）
東京選抜
岐阜選抜
大阪選抜
和歌山選抜
富山選抜
函館有斗（北海道）
新居浜工（愛媛）
佐世保北（長崎）

和洋女×広島選抜か
悔れぬ島原農の登場

◇高校女子（11チーム）Aゾーンの和洋女（秋田）を買う声が強いが、島原農（長崎）の存在は無気味。インター・ハイには県予選で不覚をとり姿を見せなかったが激戦地・九州で敵なしの実力を誇る。

Bゾーンではやはり広島選抜だろう。チャンピオン山陽女に安田（進徳女）を補強。

土居（愛媛）×沖縄は、沖縄の実力を問うにかっこうの試合。

強敵を予選で倒した岐阜選抜はダークホース。

和洋女（秋田）
長野選抜
島原農（長崎）
和歌山選抜
室蘭商（北海道）
東京選抜
沖縄選抜
土居（愛媛）
兵庫選抜
岐阜選抜
広島選抜

安定している三景、本田技研
大崎らは主力欠き苦戦か

◇一般男子（30チーム）　今年も実業団が上位に進出しそうだが昨年のAOK栃木らの活躍が刺激となってクラブチームの充実も近年にないといわれる。喜ばしいことだ。

ベストエイトは順当なら大崎電気（埼玉）、AOK栃木（栃木）、住化菊本（愛媛）、ワクナガ薬品（大阪）本田技研（三重）、和歌山ク、三景（東京）、自衛隊勝田（茨城）。このうち不安なのは自衛隊勝田。ビッグゲームになるほど粘り強さをみせる名門・清商ク（静岡）はやりにくい相手だし、東北学院大OB会（宮城）のまとまりも手強い。

優勝争いに焦点をしぼると大崎電気、住化菊本、ワクナガ薬品、本田技研、三景が最短距離。

この中では本田技研、三景が強そうだ。ともに全日本に主力をとられることもなくベストメンバー。7月の全日本実業団（名古屋）では三景が22—17で本田を制して

大崎電気（埼玉）
熊本トヨタ
神戸製鋼（兵庫）
福島SGク
AOK栃木
氷見ク（富山）
函館有斗OB（道）
住化菊本（愛媛）
福岡ク
全愛知
奈良ク
日新製鋼（広島）
ワクナガ薬品（大阪）
青森ク
全神奈川
本田技研（三重）
高島ク（滋賀）
田原外郎ク（山口）
盛岡商友会（岩手）
和歌山ク
北陸電力（福井）
塩山ク（山梨）
高知ク
佐世保ク（長崎）
三景（東京）
京都ク
全石川
清商ク（静岡）
自衛隊勝田（茨城）
東北学院OB（宮城）

いるが、その後本田の力はあがっている。スウェーデン戦の経験もムダにはなっていないハズだ。

両者による準決勝が〝事実上の決勝〟という声も聞こえる。

本田はGK戸田、大下、末岡、星野、小川、三浦らテクニシャンに新人勝田、宮川らの持ち味発揮を望みたいところ。

三景はGK西牧、武井、喜田、高梨、内藤、山原に新加入の植田が定評どおりの巧技をみせている。

大崎、ワクナガは主軸を全日本にとられ、特に大崎はすでに第一線を退陣したOBを引っぱり出しての編成だ。

戦力アップの住化菊本にはチャンス。四国予選では3試合で116点という驚異的なポイントをマークしている。巧者で固めたワクナガとの一戦は白熱しよう。ワクナガも2連勝を前に簡単には引っこめない。

ダークホースは熊本トヨタ、日新製鋼呉(広島)。

クラブ勢では田原外郎ク(山口)奈良ク、京都ク、高知クに注目したい。躍進めざましい佐世保ク(長崎)が三景にどう挑むかも話題。

有力実業団を母体にした全愛知全神奈川も上位を狙う力をもっているが安定感に欠ける。全愛知は大同製鋼の得点源三人を全日本に送ったため昨年準優勝のような進出は望めまい。

日本ビクターに好機

大洋、連勝記録が重荷？

◇一般女子（12チーム） 世界選手権代表を送り出したチームと無キズのチームの明暗がはっきりでそうだ。関東予選で東京重機が失格の憂き目にあったのもそのマイナスがひびいたもの。

全国大会12連続優勝という大洋デパート（熊本）も今度ばかりは苦しい。GK森山、小林、蔵田、村中、石井、斎藤ら新鋭中心の布陣は侮れぬ力をもっているが最上位進出は難しかろう。

大崎（埼玉）、田村紡（三重）も攻撃力の低下はまぬがれない。

そうなるとブラザー工業(愛知)日本ビクター（茨城）がクローズアップされてくる。

ブラザーは金村、藤田、長塚、藤浪、原川など強力メンバーを揃えるが意外なもろさを残している。

大洋デパート(熊　本)
小　商　ク(長　野)
大　崎　電　気(埼　玉)
徳山高OGク(山　口)
和　歌　山　ク
ブラザー工業(愛　知)

日本ビクター(茨　城)
室　蘭　ク(北海道)
兵　庫　ク
高　知　ク
田　村　紡(三　重)
全　岩　手

日本ビクター（茨城）は初出場だが主力の蓮見姉妹、江川、八重樫らは三菱鉛筆時代に場数を踏んでおり、富山、谷沢は昨年の高校チャンピオン、それに高野がいい。関東制はの余勢をかって優勝まで突っ走る公算大だ。

クラブでは全岩手、和歌山クか。大阪勢を降した兵庫クも軽視できない。

スワロー兵庫が有力

巻き返すか埼玉教員ク

◇教員（9チーム） 近畿予選でチャンピオン大阪イーグルスが敗れた。全日本教職員では新旧の力が溶けあって相変らずの巧さを誇っていただけに番狂せといえる。

勝ったスワロー兵庫の株があがるのは当然だ。

埼玉教員ク
鹿児島教員団
愛　知　教　員
和歌山教員
岡　山　教　員
香　川　教　員
福　井　教　員
岩手教員ク
スワロー兵庫

木野、北山、井上、畑、GK上野清らスキのない攻守は決勝まで苦もなく進めそう。

立ちふさがるのは埼玉。全日本教職員を不本意（4位）に終っているだけに北井、高田、高戸、結城、高橋らの巻き返しを注目したい。ダークホースは和歌山と鹿児島。ともに全日本教職員で前評判どおりの力を示しており、特に和歌山の技と、鹿児島の力は埼玉も油断できない。

和歌山は田中、鈴木、吉田、塩崎、串野。鹿児島はGK海江田、平山、田之上、川添らが主力。愛知、岩手も元気、一発を狙ってくるとこわい。

フルエントリーの和歌山優勢

◇得点争い。天皇杯（男女総合得点）は唯一のフルエントリー県・和歌山が各種目に得点が予想されるので有利だろう。追うのは高校に得点源をもつ秋田と長崎、三種目に有力チームを送る埼玉と愛媛あたりではなかろうか。去年優勝の大阪は一般女子と教員の欠場がなんとも痛い。

皇后杯（女子得点）は両種目に代表の出る4県（和歌山、北海道、兵庫、長野）に一応のチャンスがあるが、いずれも一般女子に不安を残し〝絶対〟とはいえない。茨城、広島、長崎らがからんで得点は大きく割れそうだ。

国体時に世界女子壮行式

日本協会では、12月オランダで開かれる第4回世界女子7人制選手権に出場の全日本女子選手団（山田計監督ら17人）壮行式を10月25日和歌山県打田町中学校運動場で第26回国体ハンドボール開始式にひきつづいて行う。

国体地域予選代表決定記録

太字は代表

▼……北海道

▽高校男子
函館有斗 18—8 函館東
▽同女子
室蘭商 9—2 函館女商
▽一般男子
有斗OB 25—16 室蘭ク
▽同女子
宮蘭ク 20—6 函館ク
▽教員＝ベアーズが15—9で室蘭教員を破り代表権を得るも辞退。

▼……東北

▽高校男子
湯沢(秋田) 20—13 聖光学院工(福島)
▽同女子
和洋女(秋田) 10—3 全岩手
▽一般男子 6県代表によるリーグ戦の結果 **青森ク**、**盛岡商友会**(岩手)、**東北学院大OB会**(宮城)、**福島SGク**(福島)が代表に決定。
▽同女子＝記録未着
全岩手 10—5 全和洋(秋田)
▽教員
岩手 31—11 福島

▼……関東

▽高校男子
東京選抜 17—14 茨城選抜
▽同女子
東京選抜 3—1 千葉選抜
▽一般男子第1〜第4代表決定戦
自衛隊勝田(茨城) 25—3 海上自衛隊下総(千葉)
大崎電気(埼玉) 18—11 光電工業(群馬)
AOK栃木 17—16 全神奈川
三景(東京) 30—11 塩山ク(山梨)
▽同第5・第6代表決定戦
全神奈川 27—12 光電工業
塩山ク 25—14 海自下総
▽同女子第1・第2代表決定戦
日本ビクター(茨城) 10—2 東京重機工業(東京)
大崎電気(埼玉) 24—1 全神奈川
▽教員
埼玉 33—11 茨城

▼……北信越

▽高校男子
富山選抜 16—4 長野選抜
▽同女子
長野選抜 9—8 小松市女(石川)
▽一般男子第1・第2代表決定戦
北陸電力(福井) 13—11 北農ク(長野)
氷見ク(富山) 33—14 自衛隊高田(新潟)
▽同第3代表決定リーグ
全石川 17—11 北農ク
全石川 35—3 自衛隊高田
自衛隊高田×北農ク戦は行わず
▽同女子
小商ク(長野) 10—6 常盤ク(新潟)
▽教員
福井 24—18 長野

▼……東海

▽高校男子
岐阜選抜 12—11 全静岡
▽同女子
岐阜選抜 4—2 静岡選抜
▽一般男子第1〜第2代表決定戦
本田技研(三重) 15—8 常盤ク(岐阜)
全愛知 14—5 清商ク(静岡)
▽同第3代表決定戦
清商ク 16—10 常盤ク
▽同女子代表決定リーグ
①**田村紡**(三重) ②**ブラザー工業**(愛知) ③城北ク(静岡) ④全岐阜
▽教員
愛知 20—8 静岡

▼……近畿

▽高校男子
大阪選抜 21—10 京都選抜
▽同女子
兵庫選抜 11—5 滋賀選抜
▽一般女子
兵庫ク 8—7 寝屋川ク(大阪)

▽教員
スワロー兵庫 34—12 滋賀教員
▽一般男子は和歌山が開催県権利のためワク外となり、次の各県代表が地域予選を経ず直接代表権を獲得。**ワクナガ薬品**(大阪)、**神戸製鋼**(兵庫)、**奈良ク**(奈良)、**京都ク**(京都)、**高島ク**(滋賀)。

▼……中国

▽高校男子
岩国工(山口) 20—7 岡山選抜
▽同女子
広島選抜 13—4 山口選抜
▽一般男子第1・第2代表決定戦
日新製鋼呉(広島) 21—13 境港市役所(鳥取)
田原外郎ク(山口) 22—16 全倉敷(岡山)
▽同女子
徳山高OG(山口) 9—5 山陽女高OG(広島)
▽教員
岡山 29—9 山口

▼……四国

▽高校男子
新居浜工(愛媛) 12—6 三本松(香川)
▽同女子(リーグ戦)
土居(愛媛) 6—0 三本松(香川)
三本松 9—2 高知選抜
土居 棄権 高知選抜
【順位】①**土居** ②三本松 ③高知選抜
▽一般男子(リーグ戦)
高知ク 26—16 高松ク(香川)
住友化学菊本(愛媛) 54—10 第三航空群(徳島)
高知ク 棄権 第三航空群
住友化学菊本 47—10 高松ク
高松ク 棄権 第三航空群
住友化学菊本 15—9 高知ク
【順位】①**住友化学菊本** ②**高知ク** ③高松ク ④第三航空群
▽同女子
高知ク
▽教員
香川 28—18 愛媛

▼……九州

▽高校男子
佐世保北(長崎) 17—11 鹿児島選抜
▽同女子
島原農(長崎) 3—1 熊本選抜
▽一般男子(リーグ戦)
熊本トヨタ自動車(熊本) 22—7 海上自衛隊第一航空群(鹿児島)
福岡ク 10(分)10 佐世保ク(長崎)
海上自衛隊第一航空群 16—15 昭和電工ク(大分)
熊本トヨタ自動車 14—11 福岡ク
佐世保ク 27—17 昭和電工ク
福岡ク 23—12 海上自衛隊第一航空群
佐世保ク 12—10 熊本トヨタ自動車
福岡ク 20—9 昭和電工ク
佐世保ク 31—11 海上自衛隊第一航空群
熊本トヨタ自動車 20—13 昭和電工ク
【順位】①**佐世保ク** ②**熊本トヨタ自動車** ③福岡ク ④海上自衛隊第一航空群 ⑤昭和電工ク
▽同女子
大洋デパート(熊本) 13—8 鹿児島ク
▽教員
鹿児島 19—12 熊本

Osaki
営業品目
普通電力量計　電流制限器
精密電力量計　配線用しゃ断器
誘導形自動電圧調整器　配電盤・分電盤・制御器
静止形自動電圧調整器　試験用変圧器
配電線事故捜査器　各種開閉器・しゃ断器
需要電力量遠隔測定装置　数字式テレメーター・データロガー
電力需給用計器用変成器　標準用計器用変成器
リスコンーI形
大崎電氣工業株式會社
本社及び五反田工場　141 東京都品川区東五反田2の2の7　電話（03）443−7171（大代表）
電信略号「シナガワ」デンキ
蒲田工場　144 東京都大田区多摩川2の8の1　電話（03）759−6511（代表）
埼玉工場　354 埼玉県入間郡三芳町藤久保58　電話（0492）58−1205（代表）

第9回 全国スポーツ少年団大会
ハンドボールの部指導報告

斎藤和夫
（日本協会普及部委員）

◇期日　8月6、7日◇指導者　渡辺慶寿(日本協会普及部長)、宮本西嗣、斎藤和夫（以下日本協会普及部委員)、北川勇喜（日本協会技術指導部委員）◇アシスタント、大村久以下日体大ハンドボール部員7名　◇参加者男39、女18　◇指導内容▽第1日（6日）9時30分モチベイションエクササイズ・渡辺、10時ハンドボールの話・宮本、10時30分技術について・北川、11時基本技術練習、13時30分個人技術練習、14時身につけた技術によるゲーム、14時20分集団技能の練習、15時15分コンビネーションプレーを使ってのゲーム、15時50分体操　▽第2日（7日）9時30分「みんなで歌おう」、9時35分個人の基礎技術の練習、9時50分集団技術の練習、10時30分速攻練習、10時50分チームプレー練習、11時10分ゲーム、11時40分本操、13時30分「みんなで歌おう」13時45分ハンドボールのみかたとその目的・斎藤、13時55分班別練習、14時5分班別リーグ、女子対男子選抜試合15時35分整理運動、15時40分２日間の反省、16時終了。

経験者は男女で17名

参加した団員57名のうち経験者は17名（男13、女4）であった。

指導体系は、男子団員を平等に四つの班に分け、女子は二班にとどめた。

各班に1人ないし2人のアシスタントを含む指導者を配し、留意事項として意志表示をはっきり、キビキビした言動をとらせる、自分の担当班は責任をもって指導することを申し合せた。

モチベイションエクササイズの指導で始まった少年団ハンドボールグループとの接触はハンドボールの話や技術の話等を、期待と興味とで燃える様な目を集められて進められ、経験者によるゲームの見学に於て、これからの練習や方法をあらかじめの方向づけをし基本技術の練習に入る。アシスタントの日体大生は良く動き、団員も又さびきび行動し、パス・キャチよりゴールキーピングに至る大方の技術の練習に成功する。

短時間のため1秒をも生かし教大体育館せましと指導する状景は見事であり、団員の指導者の示範する技術の吸収能力は目を見はるばかりであった。午後に入りパスワーク、シュート、ガーデングを主とした個人技術と、その連けいプレーを練習し、それを使用したゲームを行なわせた所、数は少ないが、ゲーム中にその学習したプレーが見られた事は本当に嬉しく思われた。

次に集団技能の練習→ペアプレー、カッティンプレー等の指導の後ゲームを行った所、又々それがゲーム中に表現されて居る。事実我々はこんなに早くゲームに応用されるとは夢にも考えて居なかった。可能性のみを信じて指導して来たものが確信と変って来た事は言うまでもない。第一日の反省としては実質時間が少ない上にゴール、及びコートが少ない事が惜しまれた。而し内容的には非常に良かったと思われた。

団員の状況は32度以上をこす暑さの中で行なわれたせいか多少疲れが出た様である。而し時間経過と共に気力が充実し張切った言動が多数見られた。最初は意志表示もなく、おどおどして居たものが終り頃には指導者にガッチリと食いついて来たのは頼もしい限りである。手首を痛め見学した団員鈴木正宏君（神奈川）の反省を見ると、『今日は選択のハンドボールである、昨夜の停電の折、手首をいためたので見学である。

ボールは20ケで少ないが練習は合理的であったと思う。ハンドボールは見ているのは全然面白くない、かと言ってこの手でやれば、みんなめいわくをかけるばかりである。あきらめるより仕方ない、今までハンドボールについては何も知らなかった、知って居たのはボールを3秒以上持ってはいけない事だけでどうやって試合をするのかも知らなかった、ゲームを見て、やりたくて、やりたくて仕方なかった。私の学校にはハンドボールはないが、これからはチャンスがあればハンドボールは何としてもやりたい。郷里についたら仲間を集めて是非やりたいと思う。不注意でケガをしてしまったのは何としても残念である』

以上の様にして時間経過と共に指導者はますます熱気をおび、団員はハンドボールのとりことなって第一日を終了したのである。

第二日仲間意識と今日一日の心構えをかきたてる合唱より昨日の

復習から更に高い個人技術、集団技術の練習と経過、速攻、チームプレーの練習と経過、今日も暑い。グランドの第8分団の軟式野球は水ばかりまいて居る。32・3度はこすであろう。その中で団員、指導者一体となって時間を忘れて走りまわる、団員の吸収能力はおどろくべき早さである。4試合各10分のゲーム中、中間に20分のチーム練習を入れると後の2ゲームには内容的に20分の効果を表わす、指導する者は、はね返りがあるために本当に我を忘れて体得させるべく努力するのである。午後、若い力、山ぞくの唄等で疲れの見え始めた団員の心をほぐし、日体大生の面白おかしい余興で笑いをさそい、班別リーグ戦に入った。昨日の4ゲームと今日のリーグの試合の内容は格段の差があり、班担当の指導者も我を忘れて声援し助言し、団員も又良く従い張切って、流れる汗をぬぐいながらチームの約束に従い、学習内容を応用し善戦した。我々は何となく涙が出て来そうであった。こんなにも早くハンドボールの大要を理解し技術を体得出来るものだろうか……而しこの事実を何と解したら良いか、感無量である。

最後は2日間に於けるハンドボールについて反省を団員にきき、我々は更に感銘を受け、考えさせられるものがあった。

いよいよ別れるに際しシャロムの唄の合唱で終了を宣したのであるが、団員は1人として、その場を立去ろうとする者が居なかった。我々も又、何故か立ち去り難く、もう一回唄おう。もう一回、もう一回とその名残りないものであった。特にアシスタントの弥生と団員との別れは、泣き出しそうな団員と又合う事を約束して解散した。それからも、そこ、ここのグループに引張られアシスタントの学生が宿舎に着いたのは夕暮れ時であった。

普及部の役目とは何か、目的は？　方法は？　人間づくり↓先づ第一に良き指導者、みりょくある指導者の育成であり、第二に指導体型の作成、指導者必けいとも言うべきものを作る必要がある。そして第一と第二と合せて世に出す事が最大の急務であり、現実の役目としなければならない事を痛感して二日間の指導を終了したのである。

これからの時代をになう、これらの若い層の者を指導することはハンドボールの普及において欠くことのできないものである。上記のことからを達成することによって体系づけられることが大切であることを重ねて報告する。

附　各ゲーム別にみた「表現されたプレー」分析

▼第1日（4試合）

① Ⅳ班 5—4 Ⅰ班
- Ⅳ班：プレーそのものが限られた者で行われる
- Ⅰ班：個人に頼るプレーが多い

② Ⅲ班 3—2 Ⅱ班
- Ⅲ班：プレーそのものが個人的
- Ⅱ班：プレーそのものが個人的

③ Ⅰ班 6—4 Ⅱ班
- Ⅰ班：3～4人のプレーである。ボールがパスされるのは限られた人
- Ⅱ班：2人程のプレーである。限られた人にのみボールが渡る。

④ Ⅱ班 6—5 Ⅲ班
- Ⅱ班：3～4人のプレーである。
- Ⅲ班：3～4人のプレーである。

▼第2日午前（8試合）

① Ⅰ班 3—3 Ⅲ班
- 特記事項なし

② Ⅱ班 2—2 Ⅳ班
- Ⅱ班：特になし
- Ⅳ班：ディフェンスがGKにボールをパス（1回）

③ A班 1—0 B班
- 特記事項なし

④ B班 5—2 A班
- B班：特になし
- A班：ダブルドリブル（1回）

⑤ Ⅳ班 4—0 Ⅱ班
- Ⅳ班：応用フリースロー　シングルシュート
- Ⅱ班：応用フリースロー

⑥ Ⅰ班 6—3 Ⅲ班
- Ⅰ班：ゴールスローミス　応用フリースロー
- Ⅲ班：ゴールスローミス　ダブルドリブル

⑦ 男A 1—0 女A
- 男A：ダブルドリブル　応用フリースロー
- 女A：特になし

⑧ 男B 3—0 女B
- 男B：特になし
- 女B：スローイン反則　応用フリースロー

▼第2日午後（4試合）

① Ⅰ班 3—3 Ⅱ班
- Ⅰ班：ゴールスローミス（2回）
- Ⅱ班：トリックフリースロー

② Ⅳ班 4—1 Ⅲ班
- Ⅳ班：サイドから45度パス　サイドからポストパス
- Ⅲ班：フリースロー応用

③ Ⅱ班 1—1 Ⅲ班
- Ⅱ班：ダブルドリブル　ラインクロス　ゴールスローのミス
- Ⅲ班：ゴールスローのミス

④ Ⅵ班 5—3 Ⅰ班
- Ⅵ班：フリースローに考えたプレーがみられる
- Ⅰ班：GKラインクロス　スローオフのラインクロス

―★☆― 盛夏に中学生競う ―★☆―

夏休みを利用して各地で中学校大会が開かれた。かってない活況である。
日本協会でも「全日本中学校大会」の開催を検討しはじめている。また、来年度から「中学校学習指導要領」に復活も決まった。
地味ながら〝中学のハンドボール〟はその芽を少しづつ大きくしているようだ。編集部に送られた胎動ともいうべき各地の大会記録をまとめてお伝えしよう。

2年生チーム明豊が優勝

男子も愛知の笹島勝つ

第2回東海地区中学生大会は8月18日名古屋の名城大附高で開かれ男子は笹島(愛知)、女子は明豊(愛知)がそれぞれ初優勝した。
女子優勝の明豊は全員2年生で2年前の名古屋市小学校ハンドボール指導会で準優勝した選手が主力、小学校6年生からハンドボールをはじめた成果をいかんなく発揮、注目を集めた。

▽男子1回戦（＝準決勝）
笹島(愛知) 22—4 平田野(三重)
境川(岐阜) 10—8 港北(名古屋)
▽同3位決定戦
港北 32—11 平田野
▽同決勝
笹島 17（8—1、9—1）2 境川
▽女子1回戦（＝準決勝）
明豊(愛知) 5—4 明和(三重)
加納(岐阜) 7—4 笹島(名古屋)
▽同3位決定戦
笹島 13—9 明和
▽同決勝
明豊 7（3—3、4—3）6 加納

男女とも蒔田中が優勝

▼昭和46年度神奈川県中学大会（8月・横浜蒔田中）
▽男子1回戦（1試合）
藤ケ岡 不戦勝 清新
▽同2回戦
宮崎 15—8 港南
上溝 9—3 瀬谷
万騎ケ原 17—5 藤沢一
大野北 16—14 高津
大綱 18—6 大野南
蒔田 12—8 渡田
向の丘 27—5 関東学院
藤ケ岡 12—8 旭
▽同準々決勝
上溝 14—11 宮崎
万騎ケ原 24—4 大野北
蒔田 12—4 大綱
藤ケ岡 11—6 向の丘
▽同準決勝
万騎ケ原 15—6 上溝
蒔田 10—5 藤ケ岡
▽同3位決定戦
藤ケ岡 11—6 上溝
▽同決勝
蒔田 7（3—0、4—2）2 万騎ケ原
蒔田中は2年ぶり5回目の優勝
▽女子1回戦（1試合）
渡田 9—1 万騎ケ原
▽同準々決勝
蒔田 13—4 上溝
港南 13—4 大野南
藤ケ岡 不戦勝 旭
大野北 16—5 渡田
▽同準決勝
蒔田 6—2 港南
大野北 21—2 藤ケ岡
▽同3位決定戦
港南 棄権 藤ケ岡
▽同決勝
蒔田 11（8—3、3—3）6 大野北
蒔田中は2年ぶり7回目の優勝

甲府勢が強味示す

▼山梨県中学校大会（8月）
▽男子1回戦
日下部 10—5 甲府南西
甲府北東 12—10 押原
甲府東 6—5 笛南
山梨大附 11—3 山梨南
▽同準々決勝
甲府南 9—6 日下部
甲府北東 12—6 笛川
甲府西 14—7 甲府東
塩山 7—5 山梨大附
▽同準決勝
甲府南 8—4 甲府北東
甲府西 15—10 塩山
▽同決勝
甲府西 13（7—4、6—7）11 甲府南
▽女子1回戦（2試合）
山梨南 5—0 甲府東
都留一 14—3 甲府西
▽同準々決勝
甲府南 5—4 山梨南
塩山 17—1 甲府北
甲府北東 9—1 日下部
都留一 11—0 山梨大附
▽同準決勝
甲府南 6—0 塩山
甲府北東 4—3 都留一
▽同決勝
甲府南 7（1—1、6—2）3 甲府北東

男子・山辺、女子は吹上

▼栃木県中学校総合体育大会
▽男子1回戦（1試合）
山辺 7—5 足利三
▽同準決勝
山辺 22—8 栃木西
壬生 14—4 足利二
▽同決勝

山 辺 11（6-6、5-3）9 壬 生

▽女子準決勝（＝1回戦）

吹 上 10-1 壬 生

大 平 13-0 栃木西

▽同決勝

吹 上 6（3-0、3-2）2 大 平

笹島、延長で形原降す

▼第25回愛知県中学生総合体育大会（8月・蒲郡中）

▽男子1回戦

笹 島 10-8 上 郷

美 川 18-9 横須賀

三 谷 22-7 上 野

一宮南 16-8 豊橋中部

六ッ美 24-9 城・東

港 北 18-3 東 海

前 津 20-7 成 岩

形 原 9-7 一宮北

▽同準々決勝

笹 島 21-8 美 川

三 谷 10-5 一宮南

六ッ美 12-11 港 北

形 原 12-11 前 津

▽同準決勝

笹 島 13-7 三 谷

形 原 12-10 六ッ美

▽同決勝

笹 島 16（5-4、8-9：2-2、1-0）15 形 原

笹島中は2年ぶり2回目の優勝

▽女子1回戦

三 谷 8-3 高 岡

明 豊 8-2 成 岩

形 原 11-6 乙 川

一宮北 9-3 蘭 井

笹 島 6-2 豐橋南

六ッ美 10-4 蟹 江

一宮南 17-4 刈谷南

▽同準々決勝

三 谷 5-2 明 豊

形 原 13-12 一宮北

笹 島 11-6 六ッ美

一宮南 12-7 上 野

▽同準決勝

形 原 7-6 三 谷

▽同決勝

一宮南 8-6 笹 島

一宮南 7（5-4、2-2）6 形 原

一宮南中は2連勝

近畿は福泉南が男女優勝

第20回近畿中学校総合体育大会ハンドボール競技は8月、堺市立大浜体育館で行われ大阪・福泉南が男女優勝の偉業をとげた（詳報未着）

▽男子決勝

福泉南（大阪）13（10-4、3-6）10 生駒（奈良）

▽女子決勝

福泉南（大阪）9（7-4、2-3）5 高雄（京都）

★―☆ 海外トピックス ☆―★

東ドイツ辛くも優勝 ～ザグレブ・カップ～

2ケ月後にせまった女子世界選手権に備えて各国は活発な交流で強化を企っているが、サマーシーズン恒例の国際大会〝第11回ザグレブ杯〟は6月末ユーゴに強豪7ケ国8チームが参加して行われ注目を集めた。

決勝リーグには世界選手権保持国ハンガリー、今冬の有力候補東ドイツそれにソビエト、ユーゴが勝ち進み、大接戦の末、東ドイツ、ソビエト、ユーゴが三すくみ、得失点差で東ドイツの優勝に決まった。

▽予選リーグA組

ソビエト 18-9 ポーランド

ユーゴA 19-13 チェコ

ソビエト 10-8 チェコ

ユーゴA 19-15 ポーランド

チェコ 12-11 ポーランド

ソビエト 13-9 ユーゴA

▽同B組

ハンガリー 18-13 ユーゴB

東ドイツ 12-11 ルーマニア

ハンガリー 9-6 ルーマニア

東ドイツ 20-13 ユーゴB

東ドイツ 15（9-5、6-5）10 ハンガリー

ルーマニア 25-10 ユーゴB

▽同決勝リーグ

ユーゴA 12（7-4、5-7）11 東ドイツ

ソビエト 14（9-5、5-8）13 ハンガリー

ユーゴA 15（6-6、9-6）12 ハンガリー

東ドイツ 13（6-6、7-4）10 ソビエト

ソビエト×ユーゴA、東ドイツ×ハンガリーの2試合は予選リーグの記録を適用。

【順位】①東ドイツ2勝1敗（得失点差7）②ソビエト2勝1敗（2）③ユーゴA2勝1敗（0）④ハンガリー3敗

ユーゴ、チェコをおさえる ～タシマイダン・カップ～

第11回タシマイダン杯国際大会は6月末ユーゴに7ケ国8チームが参加して行われ地元ユーゴがチェコを得失点差でかわし優勝。

▽決勝リーグ

ユーゴA 22（8-7、14-6）13 ハンガリー

ルーマニア 13（分）13 ハンガリー

チェコ 14（8-9、6-4）13 ルーマニア

チェコ 17-14 ユーゴA

ハンガリー 21（15-6、6-13）19 チェコ

ユーゴA 13（7-4、6-6）10 ルーマニア

【順位】①ユーゴA2勝1敗（得失点差9）②チェコ2勝1敗（2）③ハンガリー1勝1敗1分④ルーマニア1分2敗

'71
洋装服飾専門商社㈱三景・東京都千代田区岩本町３－２－10 〒101

中大の初優勝成る!! 関東学生秋季

関東学生秋季リーグ戦は例年より早く9月21日から10月2日まで東京・駒沢屋内球技場で行われた
注目の男子1部は6勝同士の中央×日体戦に優勝がかかり中央は後半29分8秒佐々木が殊勲のシュートを決め14―13とし初優勝、昭和21年秋加盟以来26年目で悲願を実らせた。2位以下は②日体③法政④早稲田⑤立教⑥東教大・芝工大⑧日大。2部は明治が1位。
女子は日体大が東教大の食い下りをかわし21連覇。（詳報次号）

西南学院、6回目の優勝

◆第21回九州地区大学体育大会ハンドボール競技（7月28、29日大分大体育館、参加・男子のみ14校）

▽1回戦
宮崎大 19―18 福岡教大
福岡大 14―13 熊本工大
九州産大 30―3 大分大
西南学院 18―5 福岡工大
熊本商大 23―16 久留米工業学園短大
熊本大 20―9 東海

▽準々決勝
熊本大 24（11―3、13―8）11 長崎大
西南学院 17（5―6、12―5）11 熊本商大
九州産大 20（12―6、8―9）15 鹿児島大
福岡大 18（9―4、9―0）4 宮崎大

▽準決勝
九州産大 18（8―9、10―7）16 福岡大
西南学院 23（11―6、12―8）14 熊本大

▽3位決定戦
熊本大 18（8―7、10―9）16 福岡大

▽決勝
西南学院 20（10―10、10―4）14 九州産大
西南学院大は2年ぶり6回目の優勝。

各地の記録

三景、関東で初タイトル

第18回関東選手権は8月27日から3日間千葉県佐原高球技場に各都県の代表男女各8チームが参加してトーナメントで行われた。
男子は予想どおり三景(東京)、大崎電気（埼玉）が決勝に進み三景が、主力5選手を全日本に送り手うすとなった大崎を突きはなし初優勝した。三景が関東でタイトルを得たのは初めて。東京代表の優勝は11年ぶり7回目、大崎の12連勝は成らなかった。
女子は有力とみられた東京重機（東京）が準決勝で日本ビクターの攻撃を防ぎ切れず完敗する波乱がおきた。エース牧野らを全日本にとられたのがひびいた。余勢をかうビクターは決勝でも大崎を降し初優勝した。茨城代表の優勝は12年ぶり3回目。それにしても決勝のスコアが2―1というのは国内最上位にある両チームの対戦にしては〝貧打戦〟すぎた。

▽男子1回戦（=準々決勝）
自衛隊勝田(茨城) 25（8―2、17―1）3 海上自衛隊下総(千葉)
大崎電気（埼玉） 18（5―6、13―5）11 光電工業（群馬）
AOK栃木 17（8―9、9―7）16 全神奈川
三景（東京） 30（15―7、15―4）11 塩山ク（山梨）

▽同準決勝
大崎電気 23（15―5、8―3）8 自衛隊勝田
三景 25（7―5、18―3）8 AOK栃木

▽同決勝
三景 13（8―7、5―3）10 大崎電気

▽女子1回戦（=準々決勝）
東京重機（東京） 16（11―3、5―0）3 栃女ク（栃木）
日本ビクター（茨城） 12（3―1、9―0）1 扇屋（千葉）
全神奈川 10（4―6、6―1）7 前橋ビジョンズ（群馬）
大崎電気（埼玉） 21（13―1、8―0）1 甲府二高OG（山梨）

▽準決勝
日本ビクター 10（4―1、6―2）3 東京重機
大崎電気 24（9―0、15―1）1 全神奈川

▽決勝
日本ビクター 2（1―0、1―1）1 大崎電気

本田、全愛知の3連勝阻む
女子は田村紡勝つ

第23回東海選手権は9月18日四日市高球技場に4県の予選勝者を集め男子はトーナメント、女子はリーグ戦で行われた。
男子は予想どおり本田技研（三重）―全愛知の決勝から本田が後半試合を巧く運んで4年ぶり2回目の優勝を果した。全愛知は攻撃の中心・大同製鋼の3選手を全日本に送りこみ手うす、3連覇は成らなかった。
女子は田村紡（三重）がブラザー工業（愛知）に東海実業団（5月）での雪じょくを果たし4年連続7回目の優勝を飾った。

▽男子準決勝（=1回戦）
本田技研（三重） 15（7―2、8―6）8 常盤ク（岐阜）
全愛知 14（3―2、11―3）5 清商ク（静岡）

▽同3位決定戦
清商ク 16（7―4、9―6）10 常盤ク

▽同決勝
本田技研 14（6―5、8―3）8 全愛知

▽女子リーグ

田村紡（三重） 20−2 全岐阜
ブラザー工業（愛知） 7−6 城北ク（静岡）
田村紡 10−4 城北ク
ブラザー工 13−2 全岐阜
城北ク 12−3 全岐阜
田村紡 7−1 ブラザー工業

【順位】①田村紡3戦全勝②ブラザー工業2勝1敗③城北ク1勝2敗④全岐阜3敗

函館有斗OB、室蘭ク破る
初の北海道クラブ大会

第1回北海道クラブ選手権は9月4、5の両日函館大谷高体育館に男子5、女子2クラブが参加して開かれ、男子は函館有斗高OB女子は室蘭クが優勝した。

▽男子1回戦（1試合）
室蘭ク 24−14 函館工OB
▽同準決勝
室蘭ク 20−11 函館青雲ク
函館有斗高OB 22−10 登別OB
▽同決勝
函館有斗高OB 25（13−8、12−8）16 室蘭ク
▽女子決勝
室蘭ク 20（10−2、10−4）6 函館ク

小松市女、大谷に大勝

▼第23回石川県民体育大会ハンドボール競技（8月・金沢）

▽高校男子準々決勝
県工 26−11 羽咋
小松工 7−3 泉ヶ丘
金工大附 14−5 松陵工
星稜 22−14 金沢商
▽同準決勝
小松工 7−4 県工
金工大附 11−8 星稜
▽同決勝
小松工 15（7−3、8−4）7 金工大附
▽同女子準々決勝
小松市女 31−1 金沢商
松任 11−8 星稜
大谷 11−10 小松商
羽咋 9−6 珠洲
▽同準決勝
小松市女 14−1 松任
大谷 7−1 羽咋
▽同決勝
小松市女 10（7−0、3−1）1 大谷
▽一般男子市郡対抗決勝
金沢市 21（9−5、12−2）7 小松市

1部優勝は堺工と枚方

▼第26回大阪高校総体ハンドボール（8月・天王寺高）

▽男子1部決勝リーグ
堺工 15−6 初芝
城東工 15（分）15 都島工
初芝 12（分）12 城東工
堺工 6（分）6 都島工
都島工 13−11 初芝
堺工 18−9 城東工

【順位】①堺工2勝1分②都島工1勝2敗③城東工2分1敗④初芝1分2敗

▽同2部順位①佐野工②富田林③北陽④千里
▽同3部順位①枚方②勝山③追手門④岸和田
▽女子1部決勝リーグ
枚方 8−5 城南
城南 7−6 寝屋川
枚方 12−4 寝屋川

【順位】①枚方②城南③寝屋川

▽同2部決勝リーグ
住吉学園 4−1 大阪女短附
箕面 8−7 大阪女短附
住吉学園 8−2 箕面

【順位】①住吉学園②箕面③大阪女短附

津と暁が優勝とげる

▼第21回三重県高校総体ハンドボール競技（8月・四日市）

▽男子決勝リーグ出場校決定戦
津 20−9 四日市
四日市工 30−0 四日市商
津工 22−12 高田
▽同決勝リーグ
津 18−8 津工
四日市工 15−9 津工
津 10−7 四日市工

【順位】①津②四日市工③津工

▽女子決勝リーグ出場校決定戦
暁 18−0 上野
津女 13−1 亀山
四日市 17−4 四日市商
▽同決勝リーグ
暁 16−6 四日市
暁 12−5 津女
津女 12−7 四日市

【順位】①暁②津女③四日市

天城、いぜん強味示す

▼第26回岡山県高校選手権（9月倉敷青陵高）

▽男子準々決勝
天城 21−3 津山工
児島 22−9 津山
津山商 22−8 玉野
倉敷工 13−9 青陵
▽同準決勝
天城 9−4 児島
倉敷工 16−8 津山商
▽同決勝
天城 13（7−2、6−5）7 倉敷工
▽女子準決勝
真備 11−4 井原
津山商 14−13 金川
▽同決勝
真備 8（4−1、4−3）4 津山商

最近「各地の記録」欄への寄稿が増え感謝しています。
用紙は自由、〆切日は特に設けませんが、大会終了後2週間以内にお送り下さい。
（編集部）

編集後記

○……晴れのオリンピック予選代表選手決定のニュースをお伝えするため、発行がいつもより遅れました。

選ばれた16人のプレイヤーは斯界を代表するにふさわしい文字どおり史上最強の布陣といえましょう。「勝って欲しい」という全国関係者の願いが実ることを確信しています。

○……スウェーデンチーム。期待にたがわず強く巧いチームでした「ラフなプレーの流行を我々は苦々しく思っている。フェアなハンドボール、クリーンなハンドボールの完成のため、日本も努力して欲しい」というアドルフソン団長の言葉は印象的で、事実スウェーデンは各地でそのモットーを貫きました。

○……秋のシーズンが開幕。メインエベントはもちろん11月のアジア予選。選手の努力、精進と相まってファンの立ち場からもこの大会を成功させなければなりません。入場券の前売りもいよいよ始まり、巨額の資金確保のため協力事業として記念品の頒布も決まったようです。

ファンの皆さんには、あるいは負担のかかることとは思いますが斯界が34年目にしてつかんだ好機御協力をお願いいたします。

（S・S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第九十一号
昭和四十年六月十[illegible]日 第三種郵便物認可
昭和四十六年九月二十五日印刷 昭和四十六年十月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一二一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円
（年間購読11回・千二百円）